

第27回（令和5年度第1回）
セーフコミュニティ 防犯対策委員会

《会 議 次 第》

日時：令和5年4月24日（月） 10：30～

場所：久留米商工会館 5階 大ホール

1. 報告事項

（1）今後の主なスケジュールについて・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料1

（2）犯罪の現状について・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料2

2. 協議事項

（1）2022（令和4）年度実績及び2023（令和5）年度方針（案）について・・ 資料3

（2）3回目の認証取得に向けた本審査について

①現地審査スケジュール・活動視察・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料4

②申請書・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料5

③プレゼン資料・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料6

3. その他

（1）合同対策委員会に関する報告・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料7

セーフコミュニティ防犯対策委員会 委員名簿

(任期：令和7年7月31日まで)

	団体等名称	委員名	役職
1	久留米市老人クラブ連合会	荒川 良子	女性部会員
2	◎ 久留米市防犯協会連合会	猪飼 廣幸	副会長
3	うきは防犯協会田主丸支部	柳瀬 一友	副会長（田主丸支部長）
4	久留米市校区暴力追放推進協議会連絡会議	渡邊 浩二	会長
5	○ 久留米市校区まちづくり連絡協議会	籾 敏博	幹事
6	久留米男女共同参画推進ネットワーク	堀田 富子	会長
7	久留米市中学校長会	古賀 一英	筑邦西中学校校長
8	久留米市小学校長会	九重 真由美	草野小学校校長
9	久留米市小・中学校PTA連合協議会	金谷 正永	西国分小PTA会長
10	久留米市校区青少年育成協議会連絡会議	江藤 孝子	理事
11	久留米商工会議所女性会	江崎 慶子	参与
12	文化街さくら会	古賀 三貴	会長
13	久留米警察署	松岡 誠倫	生活安全課長
14	（一社）久留米銀行協会	首藤 有一	常務理事
15	久留米市子ども未来部青少年育成課	原 稔治	課長
16	久留米市都市建設部道路整備課	濱浦 隆之	課長
17	久留米市教育部学校教育課	古賀 友理子	学務主幹
18	久留米市協働推進部安全安心推進課	柳 秀昭	課長
19	久留米市協働推進部男女平等推進センター	酒井 香	所長
20	久留米市協働推進部消費生活センター	吉村 栄作	所長

事務局：協働推進部安全安心推進課

[illegible]

久留米市における犯罪の現状について

① 人口 10 万人当りの一般刑法犯認知件数の推移（比較:全国、福岡県）

一般刑法犯認知件数は年々減少している。

以前は全国、県よりも高い水準であったが、令和 2 年以降は全国・県を下回っている。

※一般刑法犯：刑法犯全体から交通関係業過（交通事故によって人を死傷させた過失犯）を除いたもの

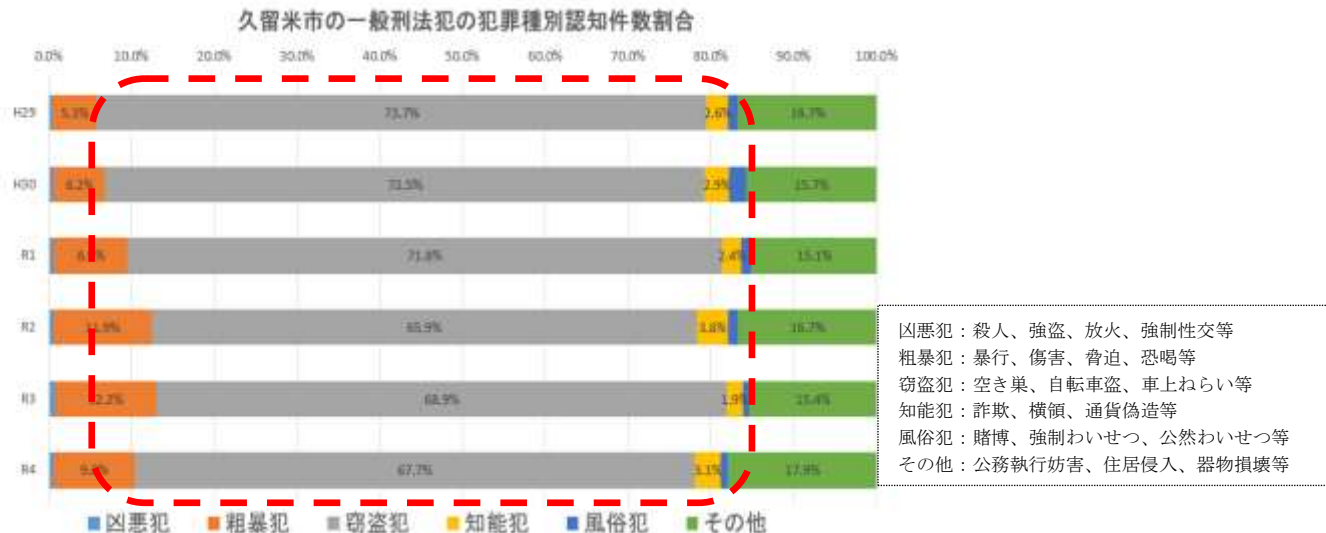
図 1



② 久留米市の一般刑法犯認知件数の割合の推移

自転車盗やオートバイ盗などの「窃盗犯」が市内の一般刑法犯の約 7 割を占めている

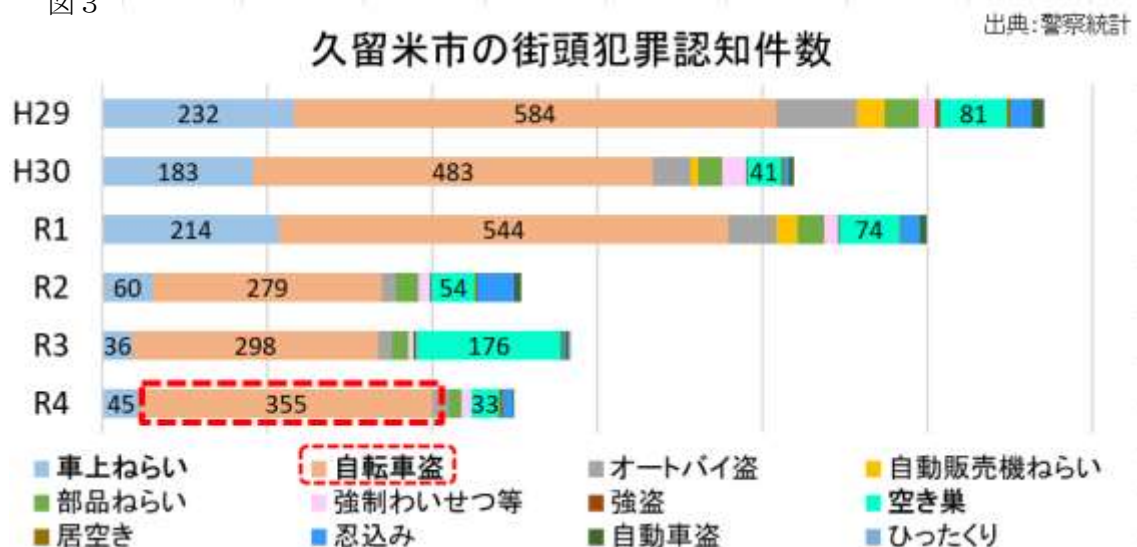
図 2



③ 久留米市の街頭犯罪認知件数の推移

市内の街頭犯罪の 7 割強を、「自転車盗」が占めている。

図 3



④ 校区別一般刑法犯認知件数の比較（H23 と R4）

平成 23 年に比べ、令和 4 年は、ほぼ全ての校区で犯罪認知件数が大幅に減少している。また、大規模商業施設や商業施設が立ち並ぶエリア、乗降客が多い駅周辺、繁華街がある校区の犯罪認知件数が、多い傾向にある。

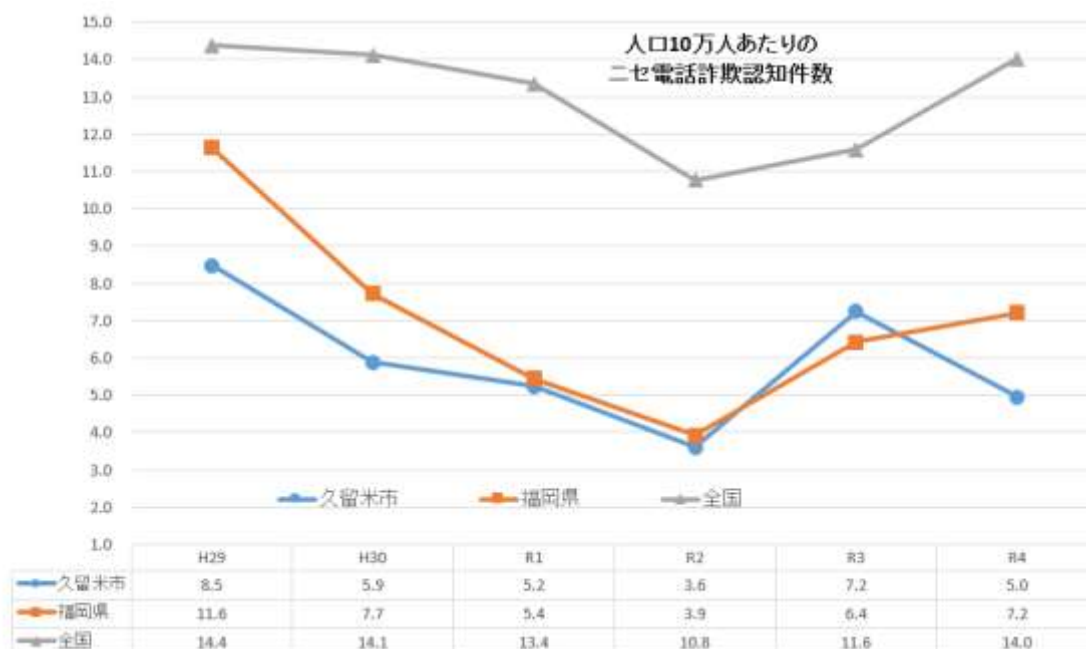
図 4



⑤ 人口 10 万人当たりの二セ電話詐欺認知件数の推移（比較:全国、福岡県）

二セ電話詐欺の人口 10 万人当たりの認知件数は、令和 3 年に急増した。令和 4 は全国・県は増加傾向だが、久留米市は減少している。

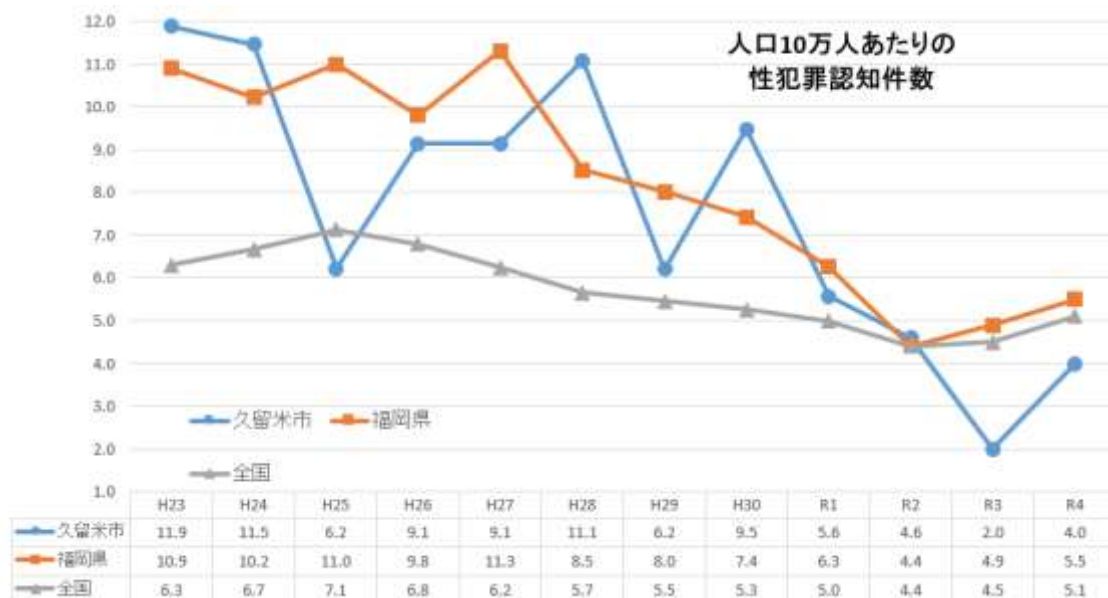
図 5



⑥ 人口 10 万人当たりの性犯罪（強制わいせつ等）の推移（比較:全国、福岡県）

久留米市で発生した性犯罪の人口 10 万人当たりの認知件数は、増減を繰り返している。令和 3 年以降、全国・県を下回っている。

図 6



令和 4 年度取り組み実績及び令和 5 年度取り組み方針 (案)

【防犯力の向上】5ー① 自転車ツーロックの推進							
課題	客観的課題	街頭犯罪の中では「自転車盗」が最も多い					
	主観的課題	割れ窓理論に照らすと、自転車盗の放置が凶悪犯罪を誘発する危険性がある					
目標	自転車盗の認知件数の減少						
内容	自転車駐車場や商業施設など自転車盗が多く発生する箇所において、無施錠車に対して、ワイヤーロックの安全性等を啓発し、自転車ツーロック推進を呼びかけるなど、自転車利用者に対して、ツーロックの推進を図る。						
対象者	自転車利用者（主に無施錠車）						
実施者	市民・事業者・防犯協会・警察・市 など						
対策委員会の関わり	・街頭啓発キャンペーンの実施 ・委員の所属団体や関係団体における啓発、団体広報誌等への記事掲載 ・チラシ、啓発グッズの作成						
2022 年度の実績 及び 改善した点等	○交通安全分野と連携した自転車ツーロックの啓発 ・自転車安全利用の啓発時に、警察・関係団体・ボランティアと協働でキャンペーン実施（2 回） ・小学生を対象とした交通安全教室での自転車ツーロック啓発 ・自転車関連の展示のなかで啓発【新規】 ○市内全中学校の新 1 年生へ啓発チラシ配布（3,000 部）						
							
2023 年度の方針 及び 課題等	SNS や各団体の広報紙等を活用した防犯情報の提供 ・様々な媒体を活用して、ツーロックの重要性等を周知 他分野との連携 ・交通安全分野と連携						
指標	内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標	自転車駐車場や商業施設などでの啓発活動回数	回	18	5	2	2	2
【短期】認識・知識	自転車ツーロックの実践状況 [アンケート]	%	32.6	28.9	—	—	28.0
【中期】態度・行動	久留米市は治安が良いと思う人の割合 [市政アンケートモニター]	%	74.8	75.2	—	75.8	80.3
【長期】状況	街頭犯罪の中で、自転車盗の認知件数 [警察統計]	件	483	544	279	298	355

【防犯力の向上】5ー② 青パト活動の充実・連携強化								
課題	客観的課題	・市民の日常の行動範囲内で発生する「街頭犯罪」が多い ・犯罪などへの不安感が高まった人が、安心感が高まった人を上回っている						
	主観的課題	・地域防犯活動の内容は校区によりばらつきがある						
目標		街頭犯罪認知件数の減少						
内容		青パト活動の充実を図るとともに、各団体参加による合同パトロール等を実施する。						
対象者		一般市民						
実施者		市民・校区・PTA・企業・防犯協会・警察・市 など						
対策委員会の関わり		・各種支援事業の周知 ・合同パトロール、研修会等の開催 ・青パト活動への参加						
2022 年度の実績 及び 改善した点等		○市内全域で、地域や関係団体による定期的な青パト活動の実施 ○一斉防犯パトロールの実施（7 月、12 月、3 月） ・市内の青パト活動団体が、市内各地を一斉にパトロール。 ○校区青パトによるニセ電話詐欺の注意喚起（5 回） ・アポ電の発生校区と連携した、青パトによるニセ電話詐欺のタイムリーな注意喚起を実施 ○警察と連携した年末特別警戒出発式（12 月） ○SNS や HP・広報誌を組み合わせた啓発【新規】 ・地域による青パトの活動内容等をまとめた啓発動画を市公式 Youtube に掲載 ・青パトをテーマとしたセーフコミュニティ通信を発行（9 月）  						
2023 年度の方針 及び 課題等		青パト活用の促進 ・地域の青パト活動の促進に向けた情報提供等 他分野との連携 ・交通安全分野との連携						
指標		内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標		青パト活動を行う校区数 （うち、専用青パト活動校区）	校区	41 (41)	44 (44)	45 (45)	45 (45)	45 (45)
【短期】認識・知識		地域で行われている防犯活動に参加 したいと思う人の割合 [市政アンケートモニター]	%	53.3	49.2	－	45.4	46.7
【中期】態度・行動		防犯パトロール実施にあたり連携する 関係機関・団体数	団体	47	51	52	52	52
【長期】状況		街頭犯罪の認知件数[警察統計]	件	838	999	508	565	498

【防犯力の向上】5ー③ 安全・安心感を高めるための地域環境の整備

課題	客観的課題	・ 大型商業施設や乗降客の多い駅、繁華街周辺で犯罪が多く発生している ・ 犯罪などへの不安感が高まった人が、安心感が高まった人を上回っている						
	主観的課題	不特定多数の人が集まる場所で犯罪が多い						
目標		街頭犯罪認知件数の減少						
内容		地域、行政、警察、関係団体などが一体となって、犯罪が起こりやすいと思われる場所について、それぞれ危険の原因を取り除く方策（街頭防犯カメラ、防犯灯、注意喚起の看板の設置等）を講じる。						
対象者		一般市民（犯罪が起こりやすいと想定される地域、場所）						
実施者		市民・校区・PTA・防犯協会・警察・市 など						
対策委員会の関わり		・ 補助制度等の周知 ・ 委員の所属団体等における啓発						
2022 年度の実績 及び 改善した点等		○街頭防犯カメラの設置 ・ 市補助を活用した地域による設置（13 台／10 団体） ※延べ設置台数 ・ 市設置 9 8 台 ・ 地域による設置 9 6 台（6 4 団体） 計 1 9 4 台 ○校区便り等を活用した、街頭防犯カメラ設置の周知 ○LED 防犯灯の設置推進（市防犯灯設置費補助金） ・ 地域の必要な箇所に LED 防犯灯を設置し生活環境を向上 ○街頭防犯カメラのネットワーク化（12 台） ・ 事件・事故の早期解決を図るため、警察からの捜査協力頻度が高いカメラをネットワーク化 						
2023 年度の方針 及び 課題等		街頭防犯カメラ設置による安心感の向上 ・ 犯罪発生状況等を踏まえ、地域と警察と連携した街頭防犯カメラ設置の推進 ・ 街頭防犯カメラ設置状況の周知啓発による犯罪抑止 防犯灯設置の推進 ・ 地域の実情に併せた防犯灯設置の推進						
指標		内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標	①防犯灯設置費補助件数		件	1,558	1,402	1035	798	762
	②街頭防犯カメラ設置補助台数		台	17	17	14	10	13
【短期】認識・知識		この 2～3 年で治安が良くなったと思う人の割合[市政アンケートモニター]	%	40.8	45.1	—	42.8	41.2
【中期】態度・行動		久留米市は治安が良いと思う人の割合[市政アンケートモニター]	%	74.8	75.2	—	75.8	80.3
【長期】状況		街頭犯罪の認知件数[警察統計]	件	838	999	508	565	498



【防犯力の向上】5ー④ 暴力団壊滅市民総決起大会等の開催								
課題	客観的課題	・市内に本拠を置く指定暴力団の構成員数は減少傾向にあるが、県内に占める割合は増加 ・犯罪などへの不安感が高まった人が、安心感が高まった人を上回っている						
	主観的課題	発砲事件などの暴力団犯罪により治安が悪くなったと感じる人が多い						
目標	暴力団の構成員の減少、暴力団の壊滅							
内容	地域社会全体で暴力団壊滅追放に取り組むため、警察、行政、市民、事業者が連携し、市民総決起大会を開催する。また、一部小学校区で実施されている暴追大会などを全小学校区で実施されるよう拡充を図る。							
対象者	一般市民							
実施者	市民・校区・PTA・防犯協会・暴力追放推進協議会・警察・市 など							
対策委員会の関わり	暴力団壊滅久留米市民総決起大会への参加 委員の所属団体等における暴力団排除の取り組み							
2022 年度の実績 及び 改善した点等	○暴力団壊滅市民総決起大会の開催 ・6 月期大会 久留米シティプラザ 参加者 1,500 人 12 月期大会 東町公園 参加者 2,000 人 ○リレーメッセージ動画の放映【新規】 ・筑後地区 12 市町長・7 警察署長が参加した啓発動画を市内各地で放映 ○校区と連携した暴追活動 ・校区の暴追大会や啓発の際に、啓発物提供等の支援。補助金交付（43 校区）							
	 							
2023 年度の方針 及び 課題等	コロナ禍における啓発活動の実施 ・暴力団情勢に応じ、感染症対策を実施した大会や会議の開催 ・様々な広報媒体を活用した啓発活動の実施 地域における暴追活動の充実 ・地域の実情に併せた暴追活動の充実を図る 関係機関と連携した暴排活動の実施 ・地域住民等と行う暴排活動や暴力団事務所撤去運動に対し、警察や弁護士等と連携して対策の検討や情報提供等を実施							
指標	内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022	
活動指標	暴力団壊滅市民総決起大会の開催数	回	2	2	1	1	2	
【短期】認識・知識	暴力団壊滅市民総決起大会の参加者数	人	1,500 2,000	1,500 2,000	31	160	1,500 2,000	
【中期】態度・行動	独自の暴追取り組みを行っている校区数	校区	42	42	41	41	43	
【長期】状況	市内に事務所を置く暴力団の構成員数 [警察統計]	人	420	390	370	320	310	

【防犯力の向上】5－⑤ 児童生徒、青少年への暴力団の実態や構成員になるのを防ぐための研修や啓発の実施							
課題	客観的課題	・市内に本拠を置く指定暴力団の構成員数は減少傾向にあるが、依然勢力を保っている ・犯罪などへの不安感が高まった人が、安心感が高まった人を上回っている					
	主観的課題	発砲事件などの暴力団犯罪により治安が悪くなったと感じる人が多い					
目標		暴力団の構成員の減少、暴力団の壊滅					
内容		中学生・高校生が対象であった暴力団関連の講話や啓発を小学生高学年に拡大し、暴力団の構成員になるのを防ぐことで、暴力団の弱体化を図る					
対象者		小学校高学年・中学生・高校生					
実施者		市民・学校・PTA・青少年育成団体・暴力追放推進協議会・警察・市など					
対策委員会の関わり		啓発内容に関する関係機関等との調整					
2022 年度の実績 及び 改善した点等		○警察による、中学生、高校生を対象とした講習（「暴排先生」）の実施 ○主に小学生を対象とした薬物乱用防止や非行防止の講習の実施（実績 82 回） ○小学生を対象に防犯や非行防止をテーマとしたポスターを募集。入選作品は、JR 久留米駅に掲示 					
2023 年度の方針 及び 課題等		年齢に応じた教室・教育の実施 ・小学生には、非行防止やルール・マナー遵守の教育の中で暴力団に関する内容に触れ、中学生や高校生には、暴力団の実態や被害防止に向けた講習を実施 地域行事等を活用した啓発・教育活動 ・校区暴追協による地域行事等での啓発活動 【5－②関連】一斉パトロールの実施 ・青少年の非行防止、健全育成を目的としたパトロールを実施					
指標	内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標	暴力団排除などの防犯教育活動を行った学校数	校	150	109	87	110	125
【短期】認識・知識	不良行為少年補導数[警察統計]	人	1,237	1,234	1,066	947	1,274
【中期】態度・行動	市内の刑法犯少年・検挙補導数[警察統計]	人	100	67	56	60	69
【長期】状況	市内に事務所を置く暴力団の構成員数[警察統計]	人	420	390	370	320	310

【防犯力の向上】 5ー⑥ 犯罪弱者に対するタイムリーな情報発信・啓発								
課題	客観的課題	・主に高齢者を狙ったニセ電話詐欺の被害が急激に増加 ・一般刑法犯認知件数は減少傾向にあるなか、性犯罪認知件数は増減を繰り返している。						
	主観的課題	高齢者や女性などが犯罪被害に遭いやすい傾向があり、これらを狙った新たな犯罪が常に生まれ続けている						
目標		ニセ電話詐欺、性犯罪被害等を減少させるため、多くの方へ情報発信する						
内容		ニセ電話詐欺やサイバー犯罪、性犯罪など、高齢者や女性など被害に遭いやすい傾向にある者を狙った犯罪について、発生状況等に応じ、タイムリーな情報発信による注意喚起意を行う。						
対象者		一般市民（高齢者、女性など）						
実施者		市民・事業者・防犯協会・警察・市 など						
対策委員会の関わり		・街頭啓発キャンペーンの実施 ・委員の所属団体や関係団体における啓発、団体広報誌等への記事掲載 ・チラシ、啓発グッズの作成						
2022 年度の実績 及び 改善した点等		○ニセ電話詐欺や悪質商法に関する出前講座（26 回） ○校区青パトによるニセ電話詐欺の注意喚起（5 回） ・予兆電話の発生校区と連携した、青パトによるニセ電話詐欺の注意喚起を実施 ○広報紙やメール配信を活用した犯罪情報の発信 ・ニセ電話詐欺をテーマにしたセーフコミュニティ通信発行<5 月> ・予兆電話の発生にあわせ、報道各社へ情報提供 ○地域の民生委員と連携した情報発信【新規】 ・ニセ電話詐欺の被害に遭いやすい高齢者に対し、民生委員の対話による注意喚起 ・防犯協会が行う「まっ太フォン」の普及事業の周知 						
2023 年度の方針 及び 課題等		<u>SNS や各団体の広報紙等を活用した防犯情報の提供</u> <u>犯罪の動向に応じた情報提供の実施</u> ・街頭啓発や出前講座により最新の手口等を周知 ・広報媒体による注意喚起 <u>《課題》より多くの市民に周知できる方策の検討</u> ・啓発ツールの検討、各種団体等との連携						
指標		内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標		犯罪の動向に応じた啓発活動・出前講座回数	回	87	67	9	24	26
【短期】認識・知識		この2～3年で治安が良くなったと思う人の割合[市政アンケートモニター]	%	40.8	45.1	—	42.8	41.2
【中期】態度・行動		久留米市は治安が良いと思う人の割合[市政アンケートモニター]	%	74.8	75.2	—	75.8	80.3
【長期】状況		①ニセ電話詐欺被害件数・阻止件数	被害(件) 阻止(件)	18 (34)	16 (20)	11 (24)	22 (62)	15 (43)
		②性犯罪認知件数[警察統計]	件	29	17	14	6	12

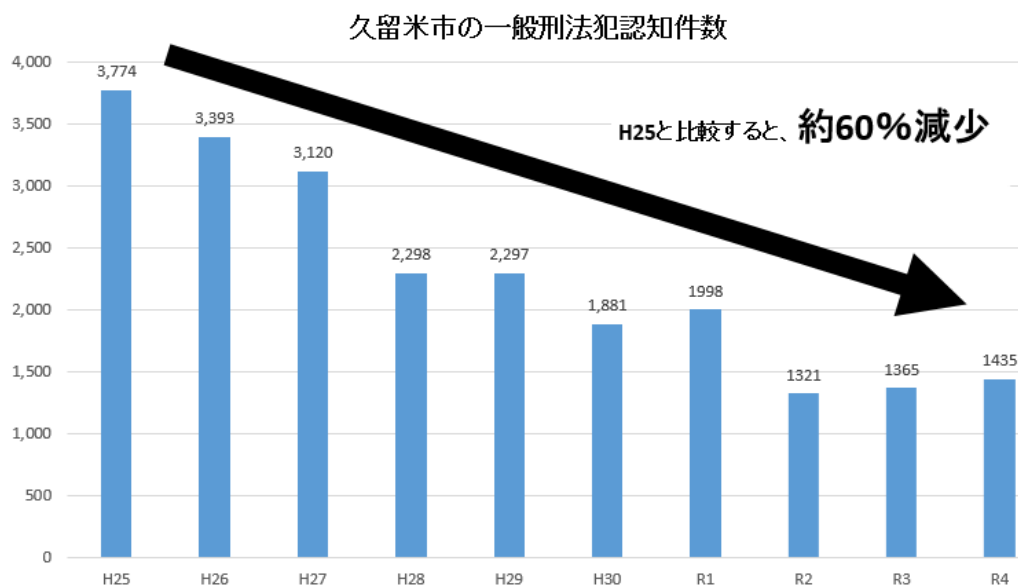
2022 年度実績

重点取り組み項目	No	具体的施策名
犯罪の防止・ 防犯力の向上	5-①	自転車ツーロックの推進
	5-②	青パト活動の充実・連携強化
	5-③	安全・安心感を高めるための地域環境の整備
	5-④	暴力団壊滅市民総決起大会等の開催
	5-⑤	児童生徒、青少年への暴力団の実態や構成員になるのを防ぐための研修や啓発の実施
	5-⑥	犯罪弱者に対するタイムリーな情報発信・啓発

ア. 成果〈数値で表せるもの〉

一般刑法犯認知件数（久留米市）

〔警察統計〕



イ. 2022 年度の取り組みで最も成功した事例

【ニセ電話詐欺の被害防止に官民が連携】

多発するニセ電話詐欺の被害から高齢者を守るため、防犯協会・電機商工組合・警察・行政が連携し、被害防止に効果的な防犯機能付き電話機（まっ太フォン）の普及促進事業を開始。

【市内に事務所を置く暴力団構成員数】

県警による総合的な取り組みや、全市一体となった暴追運動の展開により、市内に事務所を置く暴力団構成員数は過去最低を更新し続けている。

ウ. 2022 年度で最も積極的に取り組んだ活動

SNS の活用、他分野との連携



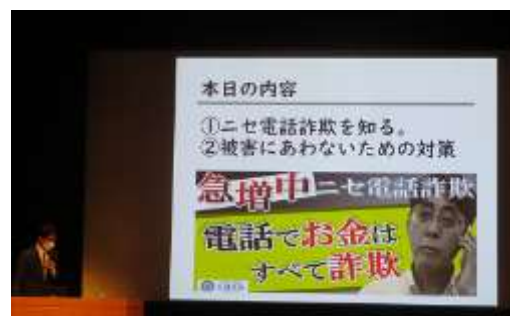
地域が一体となった決起大会を実施



地域における街頭防犯カメラの設置
※小学生への声掛け事案発生箇所への設置



SNS を活用した動画による啓発



関係団体が行うイベントでの啓発
※写真は老人クラブ福祉大会での講演のようす
(高齢者安全対策との連携)



小学生のポスターを掲示するようす
(福岡県警、校区防犯協会との連携)



自転車教室でツーロックの啓発
(交通安全との連携)

エ. 分野横断的に行っていること

- ・交通安全分野と連携した自転車ツーロックの啓発
- ・ニセ電話詐欺・性犯罪防止対策（消費生活センター、警察、防犯協会、宅建協会、電機商工組合など）

オ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

【官民連携したニセ電話詐欺対策】

ニセ電話詐欺が全国的に多発するなか、様々な場面でタイムリーな情報発信・啓発を行うと共に、官民連携した実効性がある取り組みを継続する。

【暴力団対策】

北九州市や大牟田市における暴力団対策や県条例の改正による規制の強化など、近年は県内の取り組みが大きく前進している。これを機に、地域社会が一体となり、暴力団壊滅に向けた気運醸成を図る。

2023 年度取り組み方針

具体的施策		2022 年度取り組み方針
5-①	自転車ツーロックの推進	<u>SNSや各団体の広報誌等を活用した防犯情報の提供</u> ・様々な媒体を活用して、ツーロックの重要性等を周知する。 <u>他分野との連携</u> ・交通安全分野との連携
5-②	青パト活動の充実・連携強化	<u>青パト活用の促進</u> ・地域の青パト活動の促進に向けた情報提供等の支援 <u>他分野との連携</u> ・交通安全分野との連携
5-③	安全・安心感を高めるための地域環境の整備	<u>街頭防犯カメラ設置による安心感の向上</u> ・犯罪発生状況等を踏まえ、地域や警察と連携した街頭防犯カメラ設置の推進 ・街頭防犯カメラ設置状況の周知啓発による犯罪抑止 <u>防犯灯設置の推進</u> ・地域の実情に併せた防犯カメラ設置の推進
5-④	暴力団壊滅市民総決起大会等の開催	<u>コロナ禍における啓発活動の実施</u> ・暴力団情勢に応じ、感染症対策を実施した大会や会議の開催 ・様々な広報媒体を活用した啓発活動の実施 <u>地域における暴追活動の充実</u> ・地域の実情に併せた暴追活動の充実を図る <u>関係機関と連携した暴排活動の実施</u> ・地域住民等と行う暴排活動や暴力団事務所撤去運動に対し、警察や弁護士等と連携して、対策の検討や情報提供、資金面の援助等を実施
5-⑤	児童生徒、青少年への暴力団の実態や構成員になるのを防ぐための研修や啓発の実施	<u>年齢に応じた教室・教育の実施</u> ・小学生には、非行防止やルール・マナー遵守の教育の中で暴力団に関する内容に触れ、中学生や高校生には、暴力団の実態や被害防止に向けた講習を実施 <u>地域行事等を活用した啓発・教育活動</u> ・校区暴追協による地域行事等での啓発活動 <u>【5-②関連】一斉パトロールの実施</u> ・青少年の非行防止、健全育成を目的としたパトロールを実施
5-⑥	犯罪弱者に対するタイムリーな情報発信・啓発	<u>SNS や各団体の広報紙等を活用した防犯情報の提供</u> <u>犯罪の動向に応じた情報提供の実施</u> ・街頭啓発や出前講座により最新の手口等を周知 ・広報媒体による注意喚起

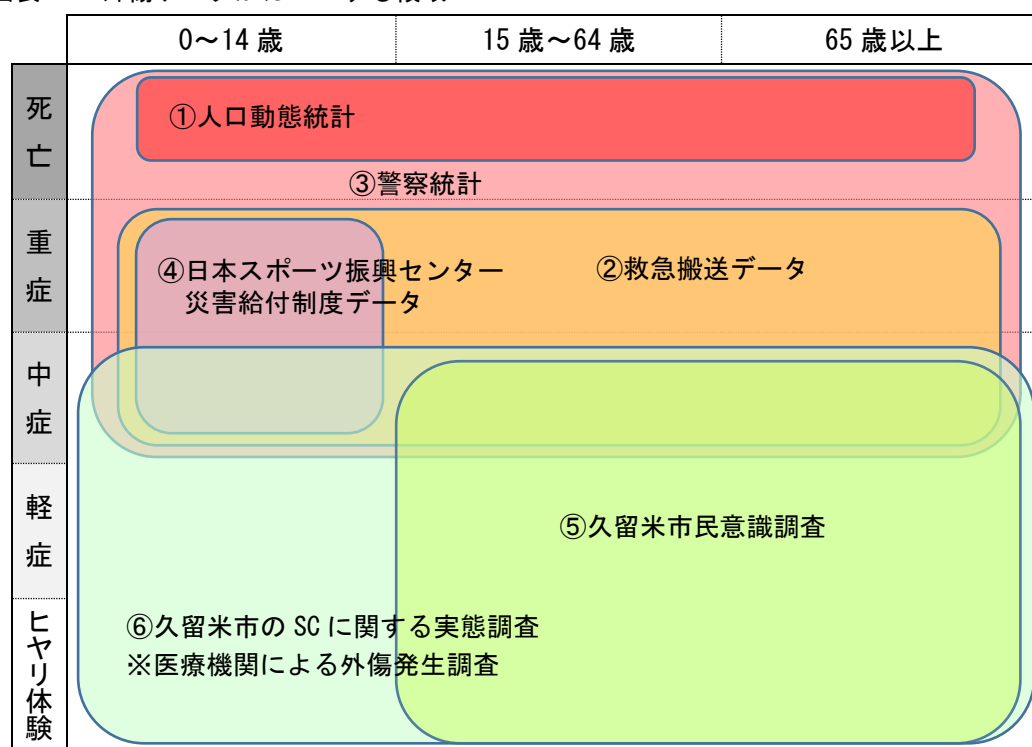
	7月31日（月）	8月1日（火）
9:00	全体概要 〈9:00～10:00〉	⑤交通安全対策委員会 〈9:00～10:00〉
10:00	外傷等動向調査委員会 〈10:15～11:15〉	⑥防犯対策委員会 〈10:15～11:15〉
11:00	①児童虐待防止対策委員会 〈11:30～12:30〉	⑦DV防止対策委員会 〈11:30～12:30〉
12:00	昼食	昼食
13:00	市内視察 〈90分〉 ※移動含む	
14:00		⑧自殺予防対策委員会 〈14:00～15:00〉
15:00	②防災対策委員会 〈15:00～16:00〉	審査員ミーティング 〈15:10～15:50〉
16:00	③学校安全対策委員会 〈16:15～17:15〉	審査員講評 〈16:00～17:00〉
17:00		
18:00	④高齢者の安全対策委員会 〈17:30～18:30〉	

指標2 Surveillance～サーベイランス

1 外傷サーベイランスの全体像

日本では、外傷の概要を把握できる一元的なデータ収集分析のしくみがなく、各自治体が独自にその仕組みを構築しなければならず、当市では重傷度により、主に以下の各種データを収集・分析しています。

図表 133 外傷データがカバーする領域



2 外傷サーベイランスを構成するデータ及び継続的なデータ収集の計画

外傷サーベイランスを構成するデータについては、持続可能なシステムにするために、次のとおり継続的なデータ収集の計画を立て収集・記録しています。

各種データは、基本的に外傷等動向調査委員会が収集・分析し、特徴的なデータを抽出して、各対策委員会に提供します。

その上で、各対策委員会では、提供されたデータ等を課題の設定や効果の測定に利用するとともに、年間レポートにも活用しています。

図表 134 主なデータと収集頻度

No.	データの名称 (収集先)	内容 (収集頻度)	活用する対策委員会							
			交通	児童虐待	学校	高齢者	防犯	D V	自殺	防災
①	人口動態統計 (厚生労働省)	死亡に関する情報 (毎年)	●			●			●	
②	救急搬送データ (久留米広域消防本部)	けがや事故による救急搬送の情報 (毎年)	●		●	●			●	

③	警察統計 (久留米警察署)	交通事故や犯罪に関する情報 (毎年)	●		●		●			
④	久留米市民意識調査 (久留米市)	けがや事故、犯罪、災害等への意識に関する情報 (3年に1回)	●	●	●	●	●	●	●	●
⑤	久留米市のSCに関する実態調査 (久留米市)	けがや事故及びSCの取組に関する情報 (3年に1回)	●	●	●	●	●	●	●	●

【個別データ】

No.	データの名称 (収集先)	内容・収集頻度	活用する対策委員会							
			交通	児童虐待	学校	高齢者	防犯	D V	自殺	防災
1	自転車駐車場利用者アンケート (久留米市)	自転車安全利用に関する情報 (毎年)	●							
2	家庭子ども相談課相談記録 (久留米市)	児童虐待発生や相談に関する情報 (毎年)		●				●		
3	児童相談所相談記録 (福岡県)	児童虐待発生や相談に関する情報 (毎年)		●						
4	次世代育成に関するニーズ調査 (久留米市)	子育てに対する意識に関する情報 (5年に1回)		●						
④	災害給付制度データ	学校のけがや事故に関する情報 (毎年)			●					
5	児童生徒の問題行動に関する調査 (文部科学省)	いじめの発生・解決件数等に関する情報 (毎年)			●					
6	あんぜんアンケート (久留米市)	小学生の安全に対する意識に関する情報 (毎年)			●					
7	高齢者実態調査 (久留米市)	高齢者の転倒や虐待に関する認識等に関する情報 (3年に1回)				●				
8	長寿支援課記録 (久留米市)	高齢者虐待の発生や相談に関する情報 (毎年)				●				
9	市政アンケートモニター (久留米市)	体感治安や市政への意向・ニーズに関するアンケート (毎年)					●			
10	男女平等に関する市民意識調査 (久留米市)	D Vや男女平等に対する意識に関する情報 (5年に1回)						●		
11	男女平等推進センター記録 (久留米市)	D V発生や相談に関する情報 (毎年)						●		
12	自殺の原因・動機別データ (警察庁)	自殺について原因や動機別に表した統計データ (毎年)							●	
13	防災対策課記録 (久留米市)	自主防災活動等に関する情報 (毎年)								●

①人口動態統計

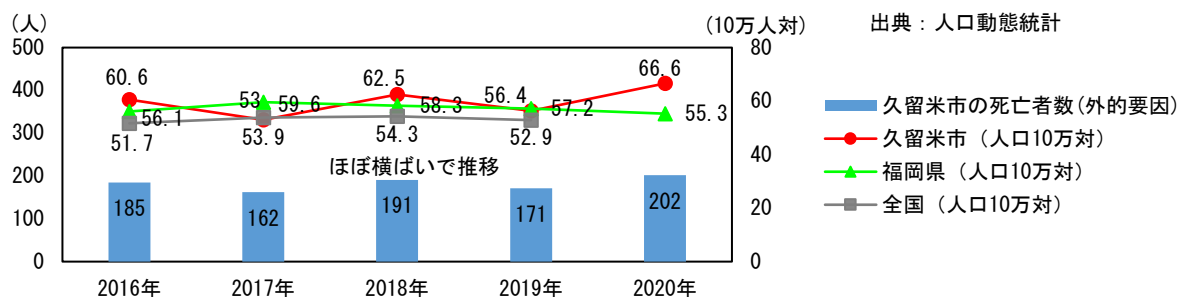
(1) 死亡者数の推移と死亡原因

久留米市内における 2016 年から 2020 年までの 5 年間の死亡者数は 16,075 人であり、そのうち
外的要因による死亡者数は 911 人で、全体の 5.7% を占めます。

人口 10 万人当たりの久留米市の外的要因による死亡者数は、ほぼ横ばいで推移しており、全国
や福岡県の平均を上回っています。

また、外的要因による死亡原因では、10 歳～69 歳までの年齢層で「自殺」が最も多く、若い年代
では「交通事故」、高齢者では「溺死」「窒息」「転倒」などが多い傾向がみられます。

図表17 外的要因による死亡者数及び人口10万人当たりの死亡者数の割合



図表 18 年齢層別外的要因による死亡原因

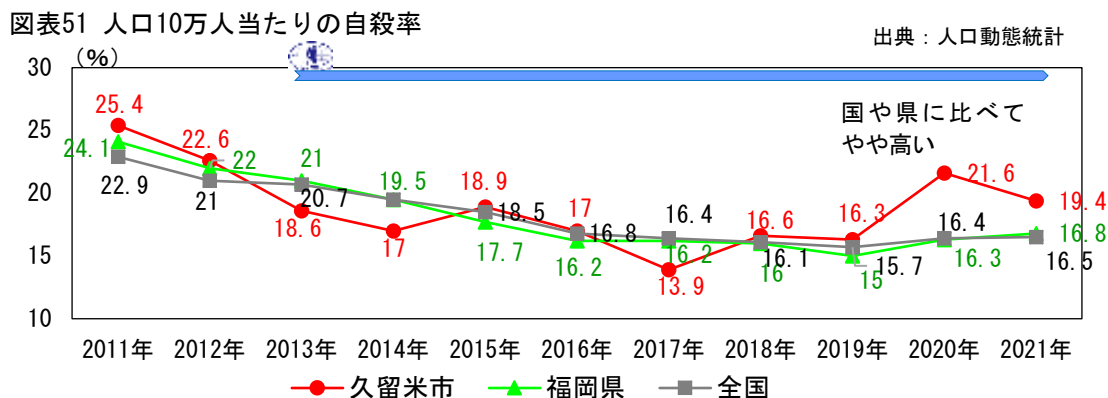
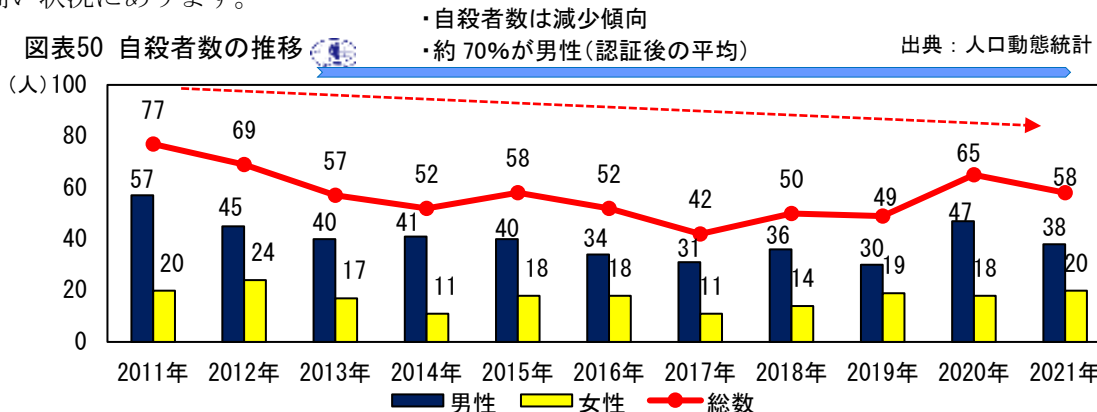
出典：人口動態統計 (2016～2020 年までの 5 年間)

(人)

年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9 歳	溺死・溺水 2	転倒・転落 1	—	—	—
10～19 歳	自殺 13	交通事故 2	転倒・転落 1	—	—
20～29 歳	自殺 23	交通事故 7	転倒・転落 1	—	—
30～39 歳	自殺 30	溺死・溺水 3	交通事故 1	転倒・転落 1	窒息 1
40～49 歳	自殺 43	転倒・転落 4	窒息 4	交通事故 3	溺死・溺水/煙・火/中毒/その他不慮の事故 各 1
50～59 歳	自殺 50	交通事故 5	溺死・溺水 4	窒息 3	中毒 3
60～69 歳	自殺 39	溺死・溺水 21	窒息 10	交通事故 9	転倒・転落 6
70～79 歳	溺死・溺水 52	自殺 31	窒息 24	転倒・転落 13	交通事故 9
80～89 歳	溺死・溺水 83	窒息 33	転倒・転落 33	自殺 24	交通事故 15
90 歳～	転倒・転落 45	溺死・溺水 28	窒息 24	自殺 5	交通事故 3
合計	自殺 258	溺死・溺水 194	転倒・転落 106	窒息 100	交通事故 54

(2) 自殺者数の推移

久留米市の自殺者数は、減少傾向にあります。自殺率では全国や福岡県の平均と比べて、やや高い状況にあります。



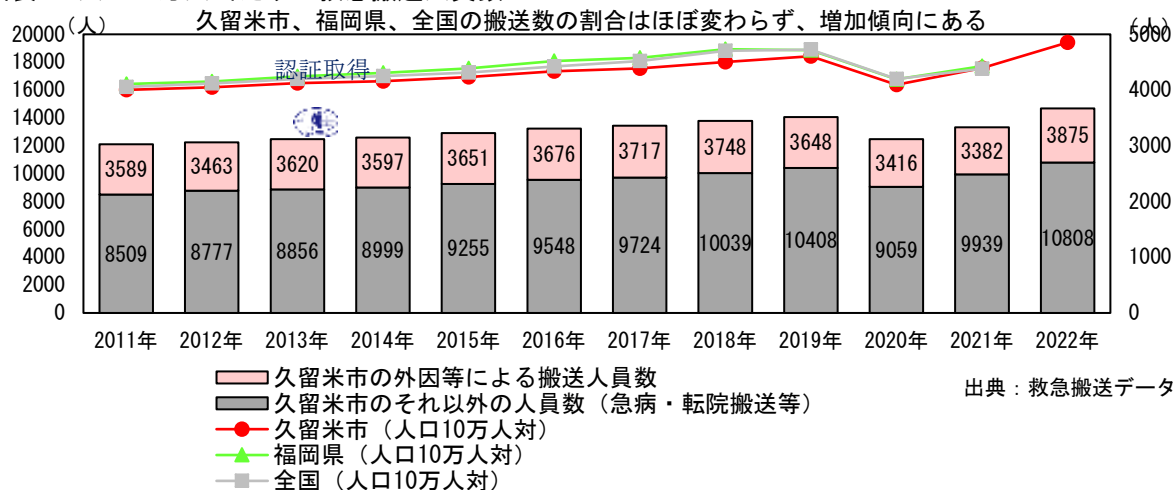
②救急搬送データ

(1) 救急搬送数の推移

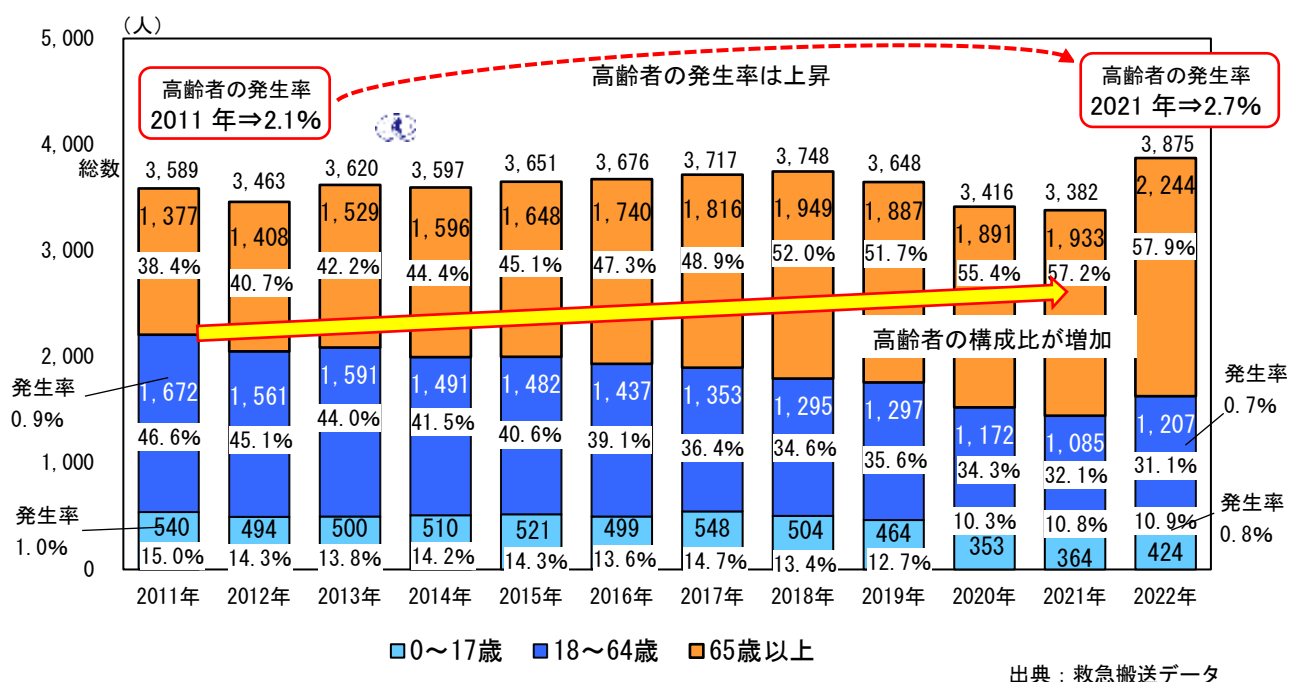
2022年に久留米市内で救急搬送された人は、全体で14,683人にのぼり、そのうち、けがや事故などの外因により搬送された人は3,875人で全体の26.4%を占めます。人口10万人当たりの搬送人員数は、全国や福岡県の平均と比較してほぼ変わらず、増加の傾向にあります。

年齢層別に見ると、0～17歳と18～64歳の搬送数が減少する一方で、高齢者人口の増加に伴い、65歳以上の搬送数が伸びており、また発生率においても65歳以上では、2011年の2.1%から2022年の2.7%に上昇しています。

図表19 人口10万人当たりの救急搬送人員数



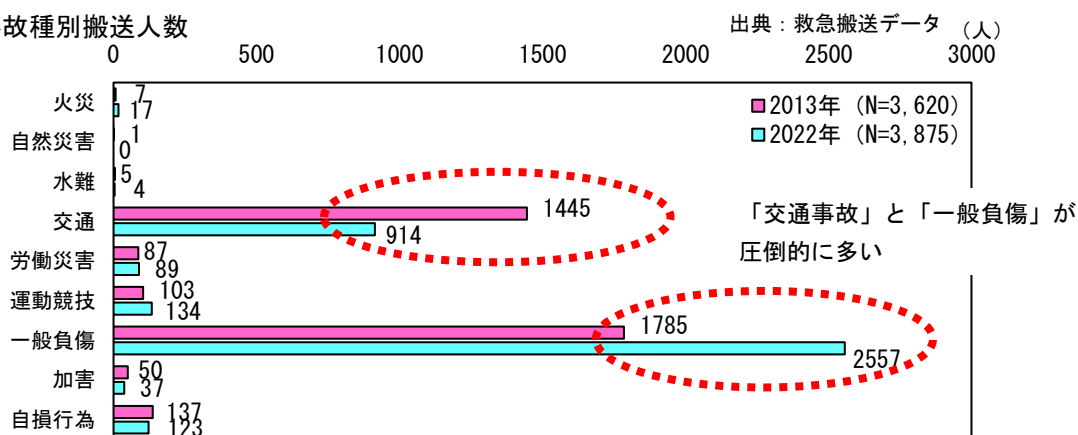
図表20 年齢層別外因による救急搬送数



(2) 事故種別ごとの搬送人数

事故種別を見ると、認証取得した2013年と同様に、現在も「交通事故」と「一般負傷」が圧倒的に多くなっています。また、「交通事故」は約4割減少していますが、「一般負傷」は増加しています。

図表21 事故種別搬送人数



※「一般負傷」…表中にある「火災」「自然災害」「水害」「交通事故」などの種別に分類されない不慮の事故のこと。

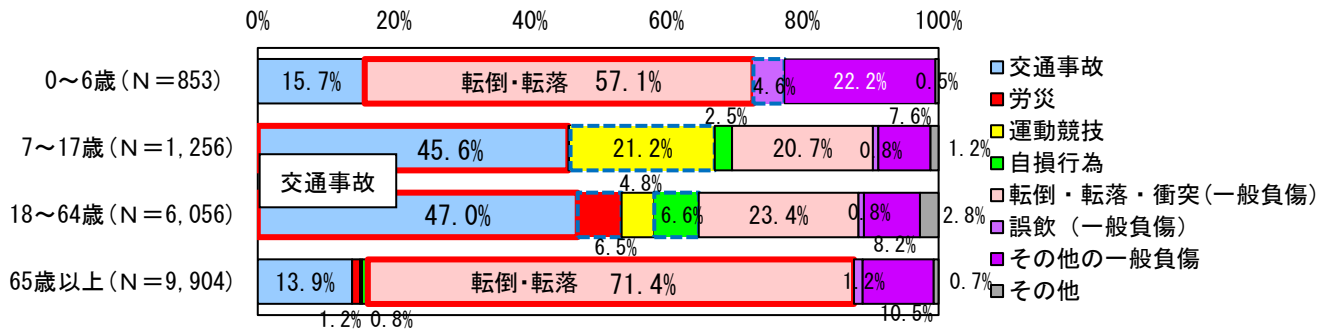
(3) 年齢層ごとの受傷原因

7～17歳と18～64歳では、「交通事故」の占める割合が約50%と高くなっています。

また、0～6歳と65歳以上では、「転倒・転落」の占める割合が高く、特に65歳以上では、70%以上を占めています。さらに特徴として、0～6歳では「誤飲」、7～17歳では「運動中のけが」、18～64歳では「労働災害」や「自損行為」が他の年齢層と比較して高くなっています。

図表22 年齢層別受傷原因

出典：救急搬送データ（2018～2022年までの5年間）



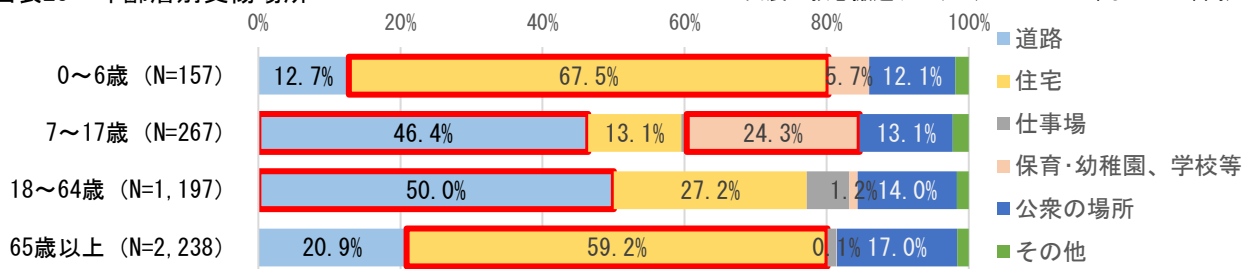
(4) 年齢層ごとの受傷場所

0～6歳と65歳以上では、「住宅」の占める割合が約60%と高くなっています。

また、7～64歳では、「道路」の占める割合が約50%と高くなっています。さらに特徴として、7～17歳では、「学校等」の占める割合が他の年齢層と比較して高くなっています。

図表23 年齢層別受傷場所

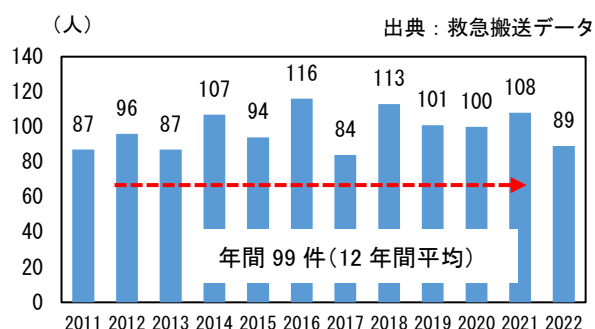
出典：救急搬送データ（2018～2022年までの5年間）



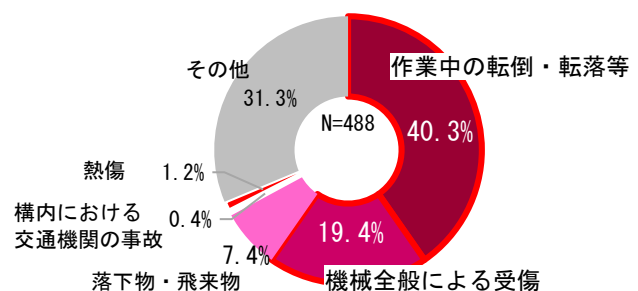
(5) 労働災害の件数と受傷形態

労働災害による救急搬送件数は、年により増減はあるものの、平均100件前後とほぼ横ばいで推移しており、救急搬送全体の3%を占めています。また受傷形態では、「作業中の転倒・転落等」が最も多く全体の40.3%を占め、次いで「機械全般による受傷」が19.4%となっています。

図表56 労働災害による救急搬送件数



図表57 労働災害による受傷形態の内訳



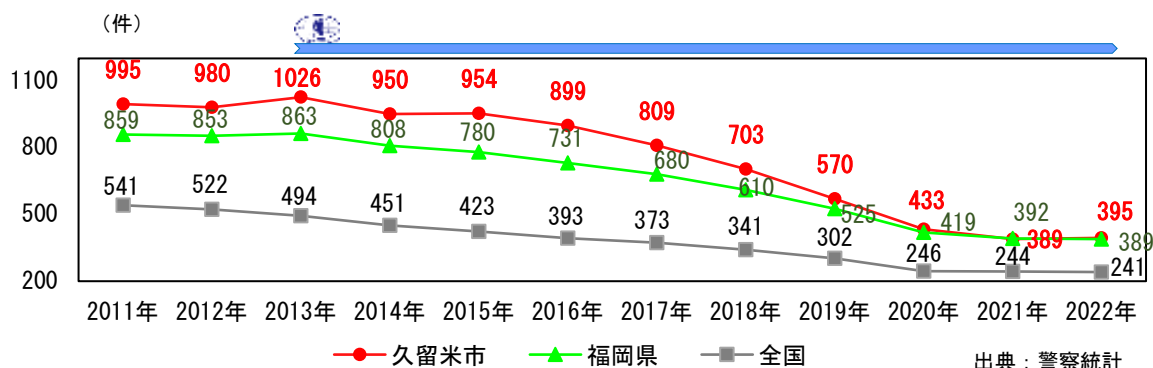
出典：救急搬送データ（2018～2022年までの5年間）

③警察統計

(1) 交通事故発生件数の推移

久留米市内の交通事故発生件数は、**減少傾向にあり**、人口 10 万人当たりの件数で比較すると、全国よりも高くなっていますが、**減少率は全国、福岡県よりも高い状況です**。

図表26 交通事故発生件数（人口10万人当たり）

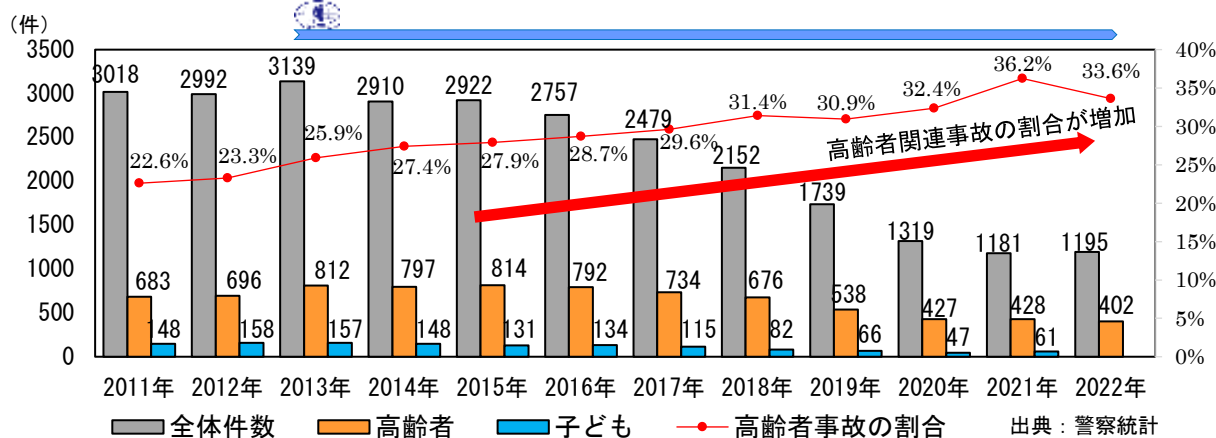


(2) 高齢者事故の占める割合と死亡者数の推移

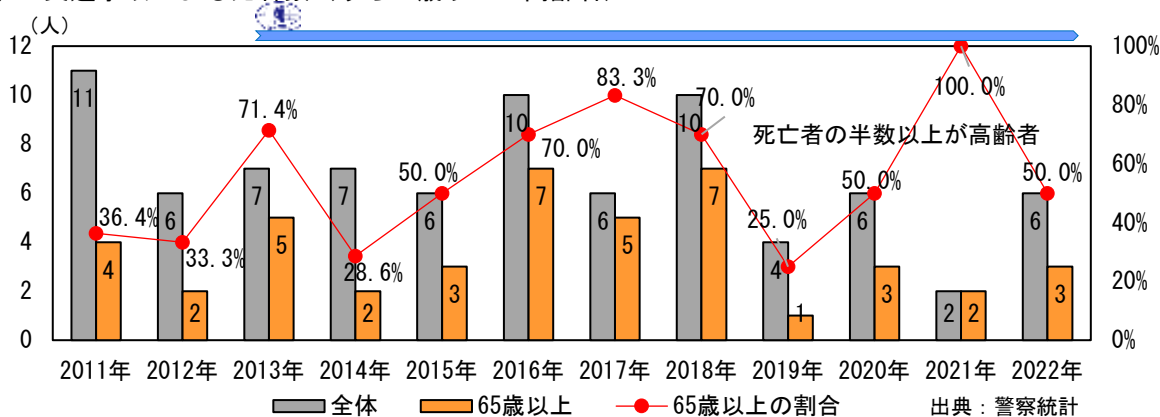
交通事故発生件数は減少する一方で、高齢者関連事故の**割合**は増加傾向にあり、全体の 30%**以上**を占めています。

また、交通事故による死亡者の半数以上が高齢者となっています。

図表27 市内の交通事故発生件数と高齢者事故の占める割合



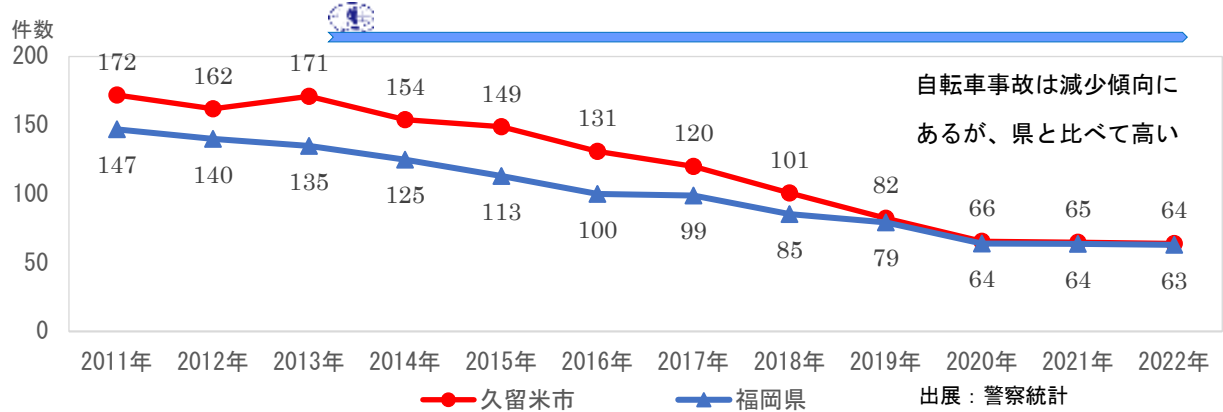
図表28 交通事故による死者数（うち65歳以上の高齢者）



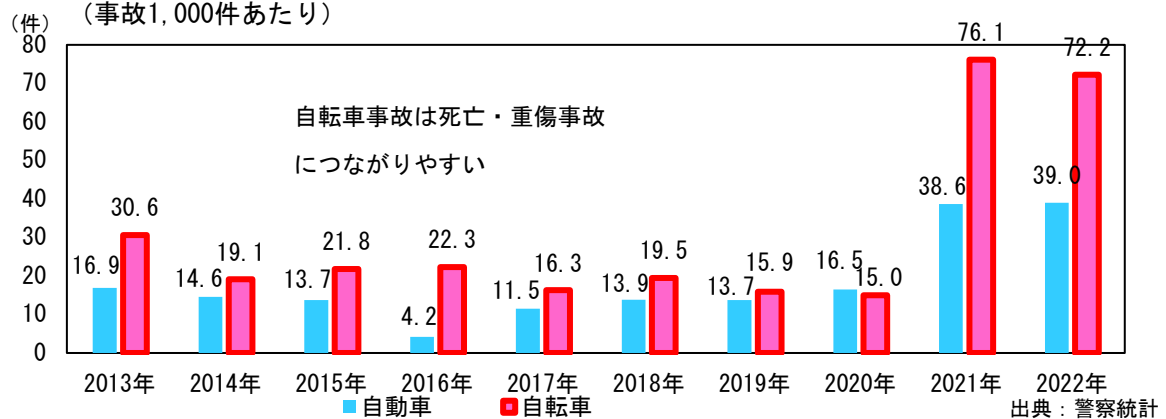
(3) 自転車事故発生件数の推移

久留米市内の自転車事故発生件数は減少傾向にあるものの、福岡県の平均より高くなっています。
また、死亡や重傷につながる交通事故は、自動車に比べ自転車のほうが高い状況にあります。

図表29 人口10万人当たりの自転車事故発生件数



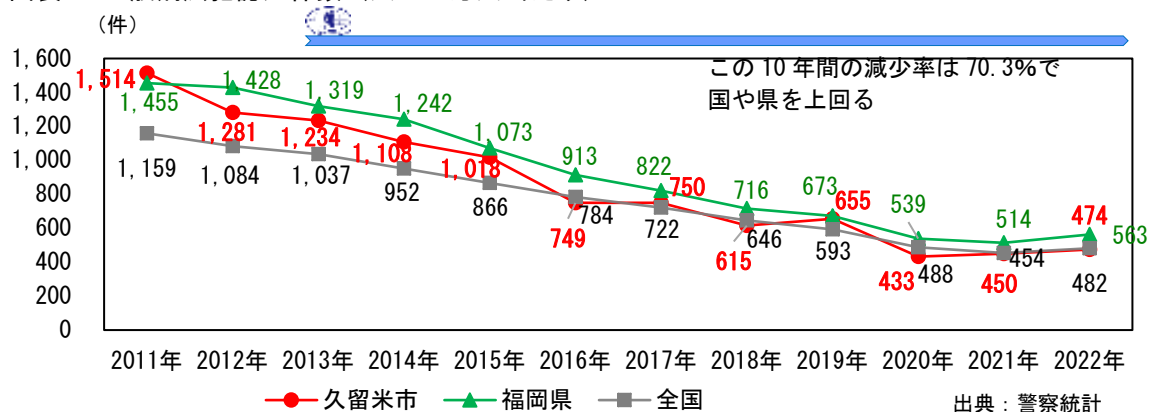
図表30 自転車及び自動車による死亡または重傷事故件数の比較
(事故1,000件あたり)



(4) 犯罪の発生件数の推移

久留米市の犯罪の状況（一般刑法犯認知件数）を見ると、**2022年は1,435件**まで減少しており、この10年間の人口10万人当たりの件数で比較すると、全国の減少率**55.5%**や福岡県の減少率**60.6%**を上回る**63.0%**となっています。

図表36 一般刑法犯認知件数（人口10万人当たり）

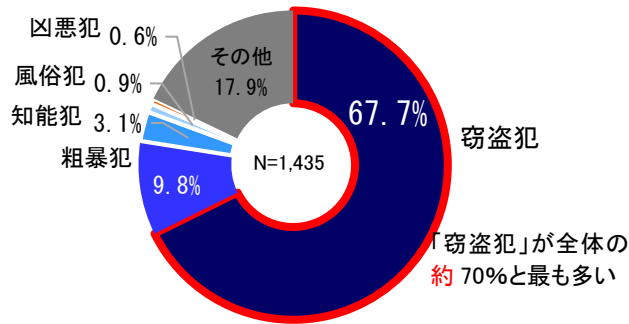


※「一般刑法犯」…刑法犯全体から自動車運転過失致死傷罪などの、交通事故によって人を死傷させた過失犯を除いたもの。

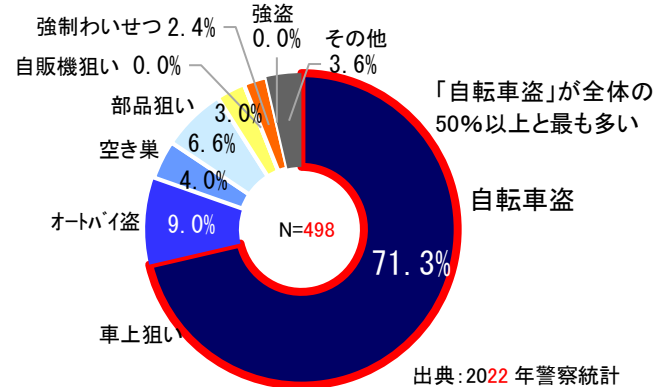
(5) 犯罪の種類

犯罪の発生状況は、「窃盗犯」が全体の約70%を占め、殺人などの凶悪犯は少ない状況です。身近で起きる街頭犯罪の内訳を見ると「自転車盗」が半数以上を占め、非常に多くなっています。

図表37 一般刑法犯の内訳



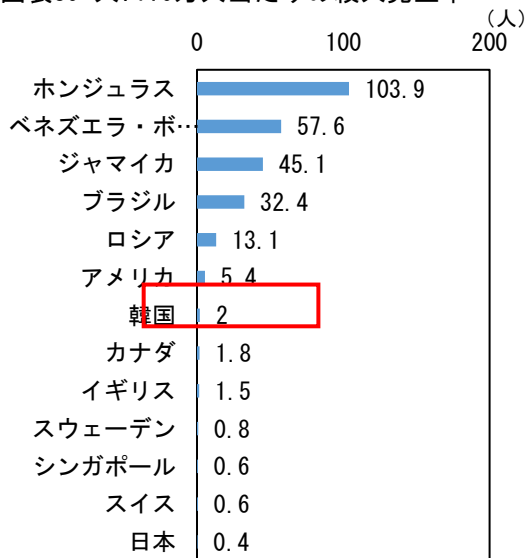
図表38 街頭犯罪の内訳



出典:2022 年警察統計

※「街頭犯罪」・・・一般刑法犯の中で、身のまわりで発生しやすい10の犯罪の総称。
(自転車盗、オートバイ盗、自動車盗、侵入盗、車上狙い、部品狙い、自販機狙い、路上強盗、ひったくり、強制わいせつ)

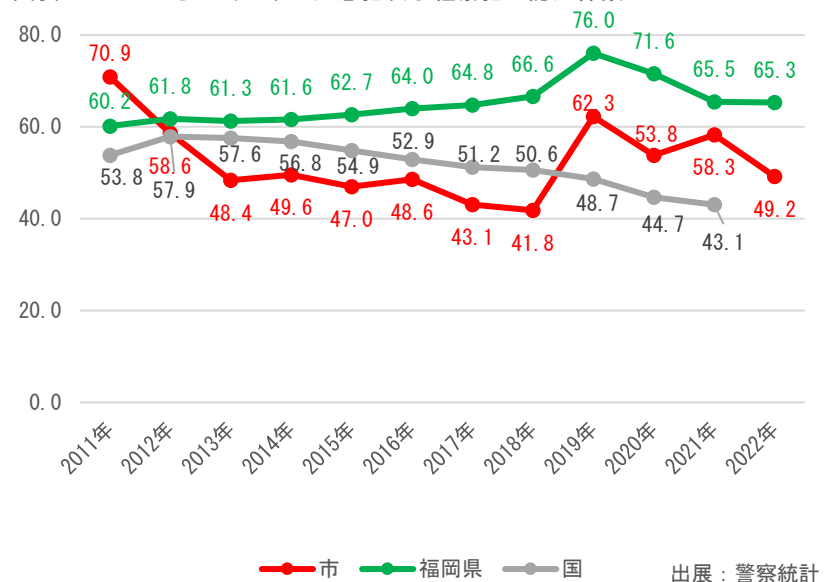
図表39 人口10万人当たりの殺人発生率



出典：2012年世界保健機関（WHO）※一部抜粋

日本では、殺人などの凶悪犯罪は非常に少ない

図表39 人口10万人当たりの凶悪犯及び粗暴犯の認知件数



④久留米市民意識調査

調査目的	変化する市民意識の動向と現在の多様な市民ニーズを統計的に把握し、今後の市の施策・事業の検討、推進、評価の基礎データとして活用することを目的としている。
調査対象	久留米市在住の満18歳以上の5,000人
調査期間	2021年7月27日～2021年8月16日
回収数	2,194人（回収率43.9%）
調査頻度	セーフコミュニティに関する項目：3年に1回（2011年から実施） ＊ 今後は認証期間にあわせ、5年に1回実施予定
調査項目	けがや事故、犯罪、災害への不安、食糧備蓄など災害への備え、心の不安に関する項目など

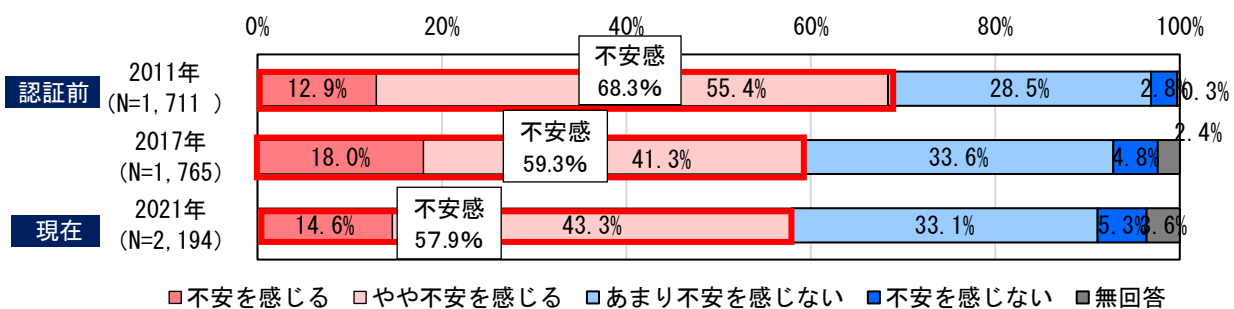
(1) お住まいの地域における不安感について

(ア) 犯罪

日常生活の中で、約60%前後の人が犯罪に対して不安を感じています。

図表41 日常生活の中で感じる犯罪に対する不安感の割合

出典：久留米市民意識調査

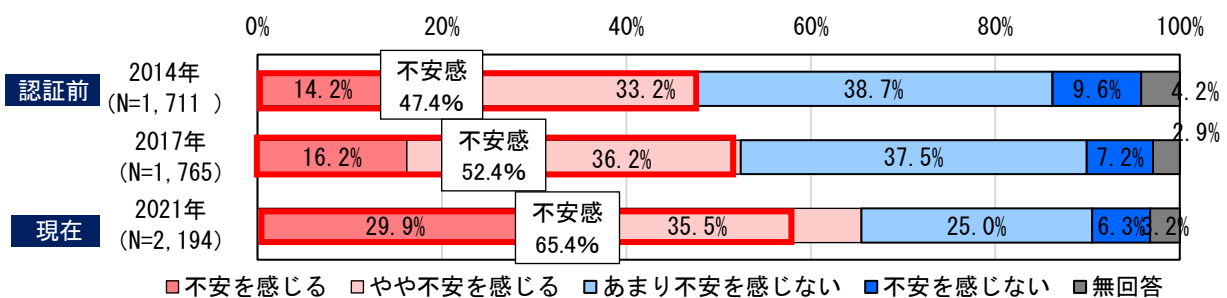


(イ) 災害

災害に対する不安感を、比較すると、『不安を感じる』の割合が増加しています。

図表41 日常生活の中で感じる犯罪に対する不安感の割合

出典：久留米市民意識調査

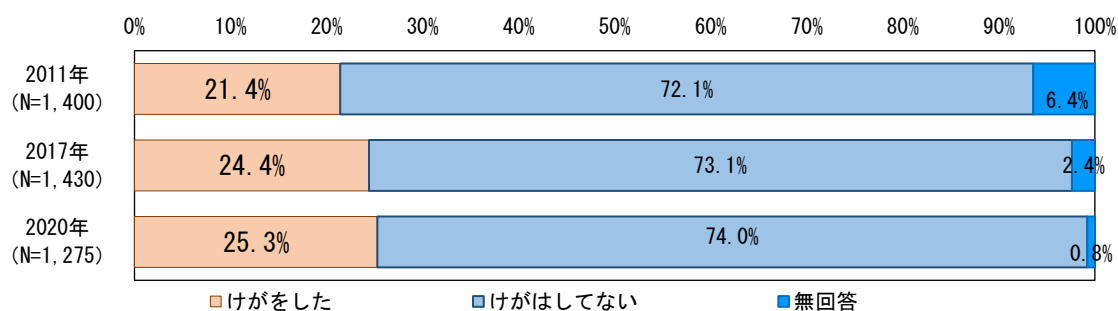


⑤久留米市のSCに関する実態調査

調査目的	セーフコミュニティの取り組みの基礎資料として、市民の経験や考えなどを把握する目的で実施
調査対象	久留米市在住の満15歳以上の2,500人
調査期間	2021年6月16日～2021年6月30日
回収数	1,275人（回収率51.0%）
調査頻度	3年に1回（2011年から実施） ＊ 今後は認証期間にあわせ、5年に1回実施予定
調査項目	けがや事故に関する全般的な項目のほか、交通安全や高齢者・子どもの安全、犯罪・暴力の予防、自殺予防、防災に関する項目

(1)-1 主なけがについて（15歳以上の人のけが）

図表● 過去1年間にケガをした人の割合



出典：久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査

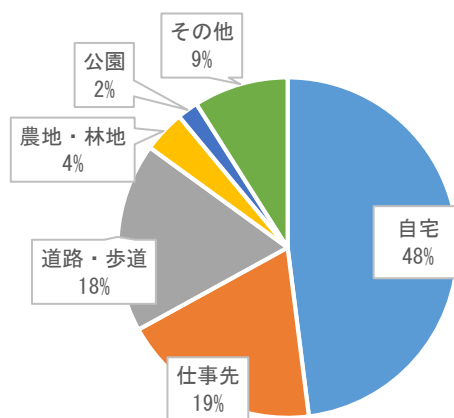
ケガをした場所は自宅の割合が48%で最も多い。

図表● けがをした場所

【性別比較】

男性は、自宅が36.2%で最も多く、次いで、仕事先の23.8%である。

女性は、自宅が、50.5%で最も多く、自宅の場所別では、台所が、20.0%と最も多い。

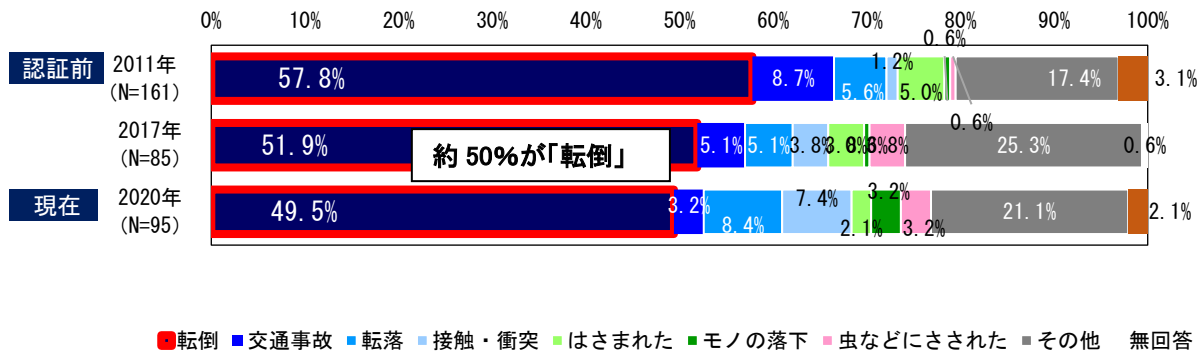


出展：2020年久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査

(1)-2 主なけがについて（65 歳以上の人のけが）

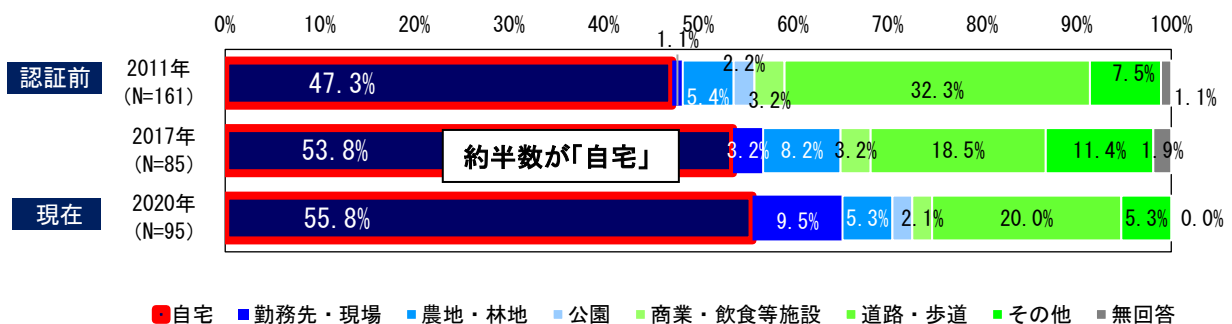
高齢者にけがの原因についてアンケートしたところ、**約 50%**が「転倒」であり、けがをした場所については約半数が「自宅」となっています。

図表34 高齢者のけがの原因



出典：久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査

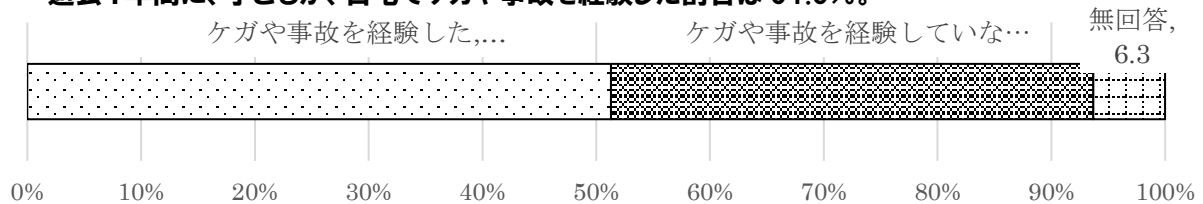
図表35 高齢者が転倒した場所



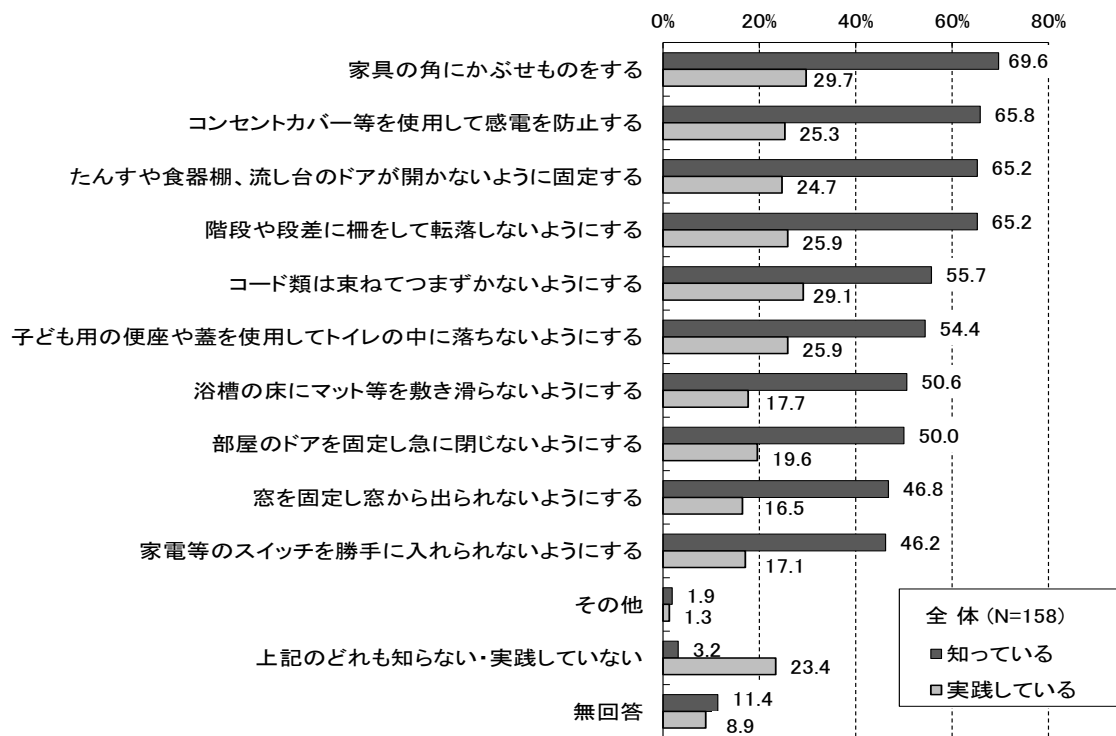
出典：久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査

(1)-3 主なけがについて（未就学児の子どものけが）

過去1年間に、子どもが、自宅でケガや事故を経験した割合は 51.3%。

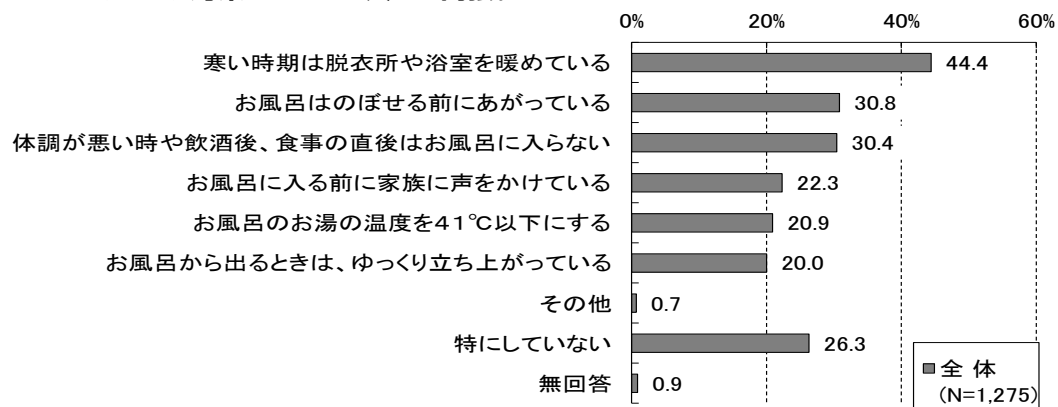


家庭内の安全対策について、知っている割合と、実践している割合には、開きがある。



(4) 高齢者の安全について

何らかのヒートショック対策をしている人は7割強。



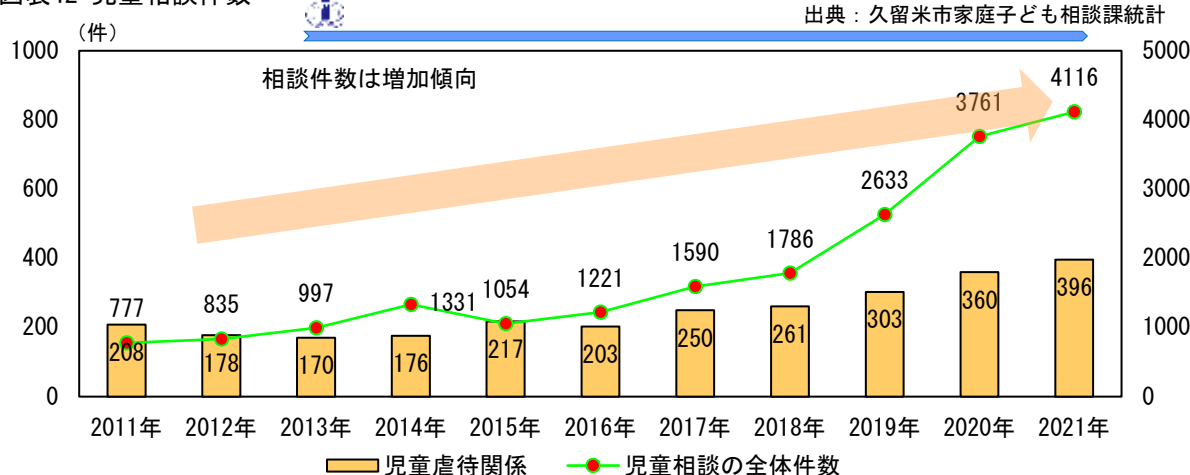
久留米市の人口動態統計（H28～R2 の累計）では、70 歳代、80 歳代の病気を除く死亡原因の第 1 位は溺死である。溺死は、浴室で多く発生しており、ヒートショックは、その原因のひとつである。

⑥個別データ

(1) 児童相談件数の推移

久留米市の児童相談件数及び児童虐待に関する相談件数は増加傾向にあります。

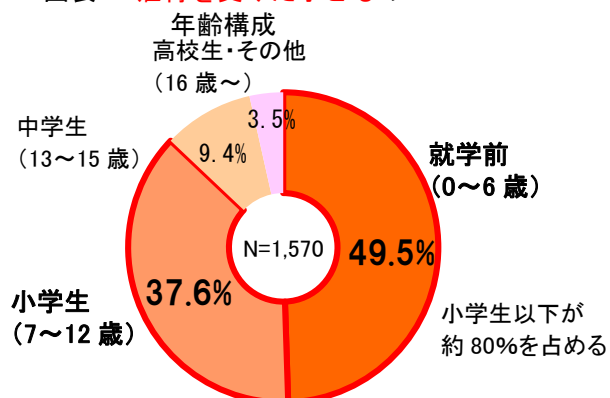
図表42 児童相談件数



(2) 虐待を受けた子どもの年齢構成、虐待者の状況、虐待の種類

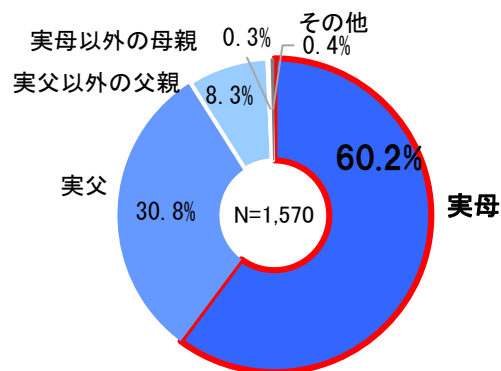
虐待を受けた子どもの年齢構成は、0～6歳までの就学前の児童が全体の49.5%を占め最も多く、小学生と合わせると全体の87.1%を占めます。虐待者の状況は、実母が全体の60.2%を占めており、虐待の種類は、心理的虐待が最も多く、全体の43.9%を占めます。

図表43 虐待を受けた子どもの



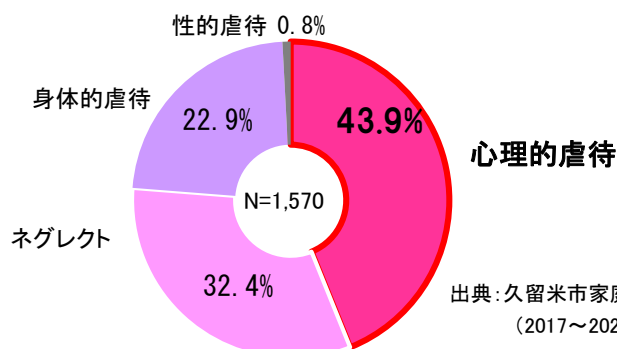
出典：久留米市家庭子ども相談課統計
(2017～2021年までの5年間)

図表44 虐待者の状況



出典：久留米市家庭子ども相談課統計
(2017～2021年までの5年間)

図表45 虐待の種類別対応件数



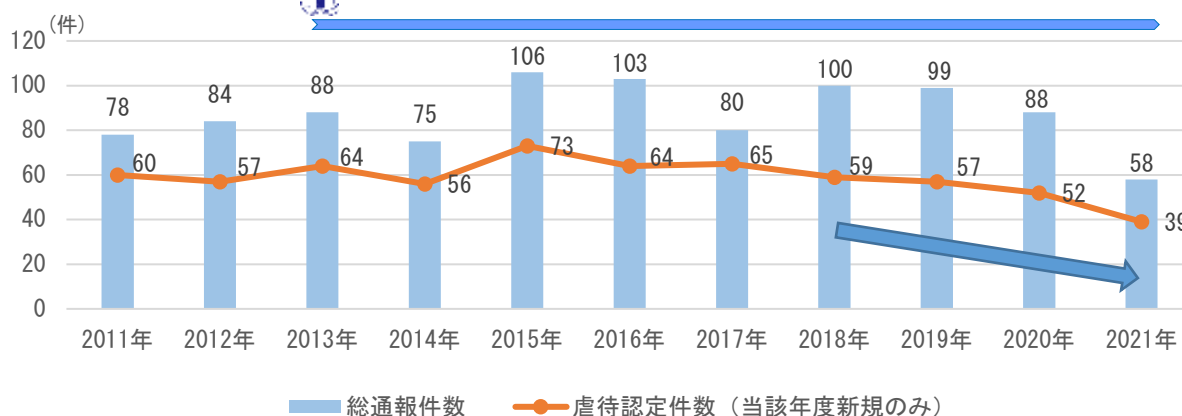
出典：久留米市家庭子ども相談課統計
(2017～2021年までの5年間)

(3) 高齢者虐待の通報・認定件数の推移

高齢者虐待の通報件数については、年によって増減はありますが近年は減少の傾向にあります。

図表46 高齢虐待に関する通報件数と認定件数

出展：久留米市長寿支援課統計

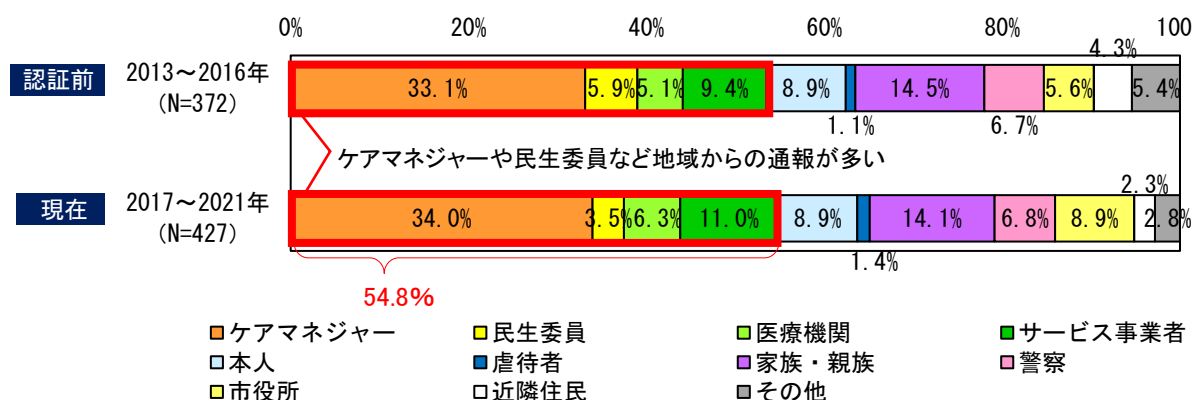


(4) 経路別の相談・通報件数の割合

通報・相談経路を見ると、ケアマネジャーや民生委員など地域からの通報の割合が多く、近隣住民などからの通報は少ない状況です。

図表47 経路別虐待相談・通報件数の割合

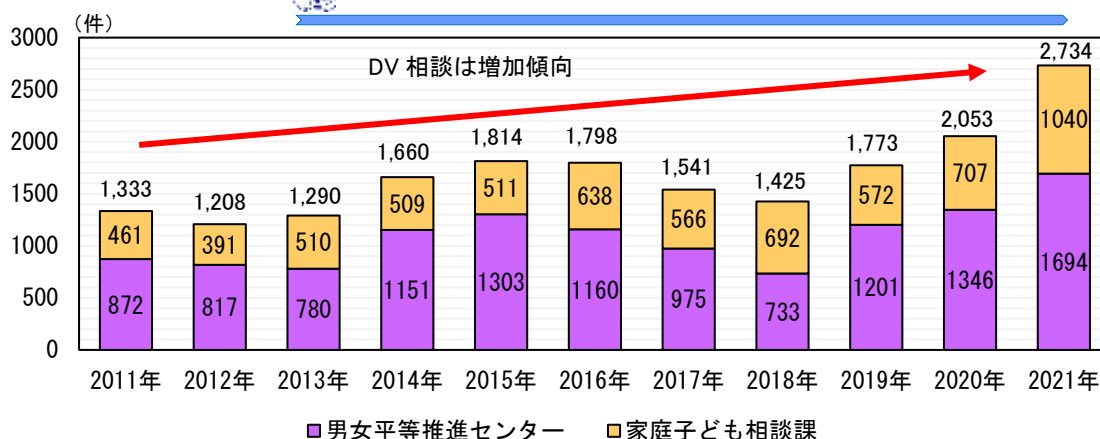
出典：久留米市長寿支援課統計



(5) DVに関する相談件数の推移

男女平等推進センター、家庭子ども相談課に寄せられるDVに関する相談件数は、増加傾向にあります。

図表48 DVの相談件数



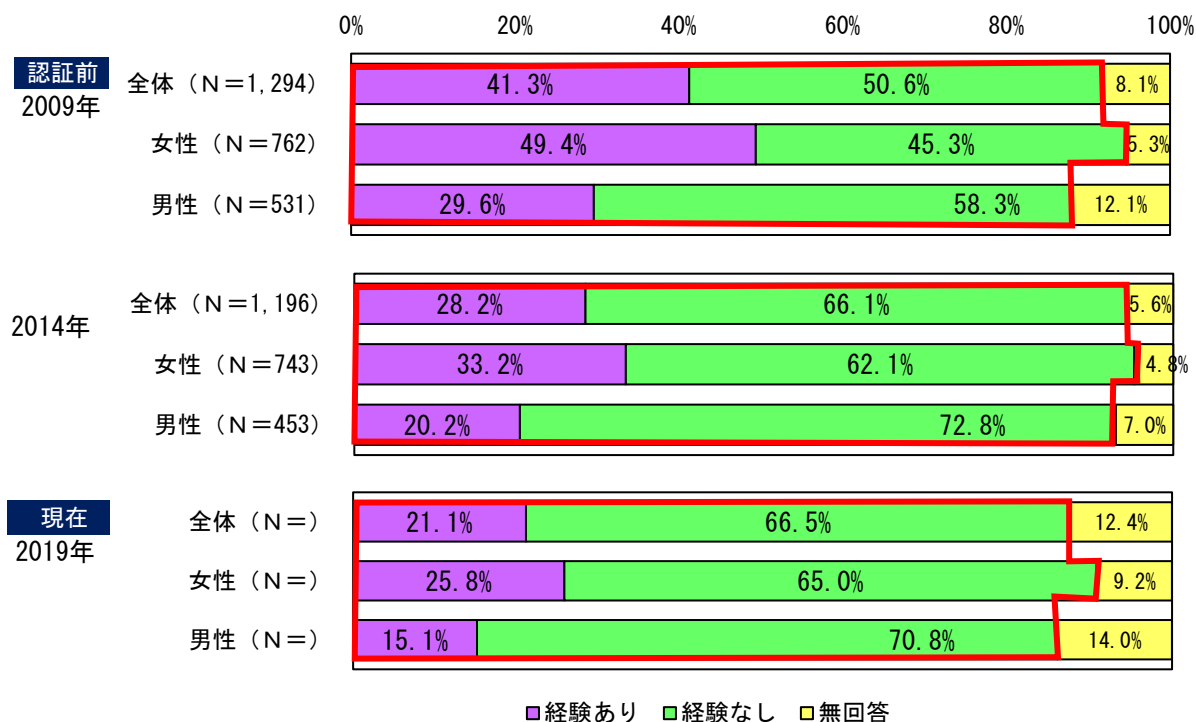
出典：久留米市男女平等推進センター、家庭子ども相談課統計

(6) DV経験の有無

パートナーから何らかの暴力を受けた経験があるかアンケートしたところ、2009年は女性49.4%、男性29.6%、全体では41.3%の人が「ある」と回答していますが、2019年は女性25.8%、男性15.1%、全体では21.1%と、全体を通して減少しています。

しかし、現在もお、約4人に1人の女性が、パートナーから何らかの暴力を受けた経験があると回答しています。

図表49 パートナーから何らかの暴力を受けた経験の有無



出展：久留米市男女平等に関する市民意識調査（5年毎）

(9) 災害の発生状況

近年、地震や台風、集中豪雨など、自然災害が数多く発生しており、本市が位置する九州においても、複数の活断層の存在や台風の上陸といった災害リスクが挙げられます。

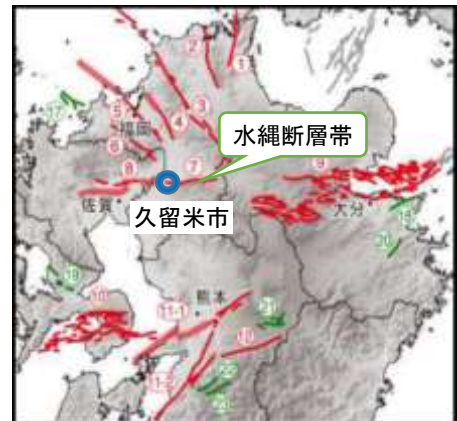
本市においても、1時間当たりの降水量の最大値が上昇傾向にあるなど、市民の自然災害に対する不安は高まっており、災害から身を守るためには、日頃から緊急時に備えた自助・共助の取り組みが求められています。

図表 52 日本で発生した主な自然災害（2011 年～2017 年）



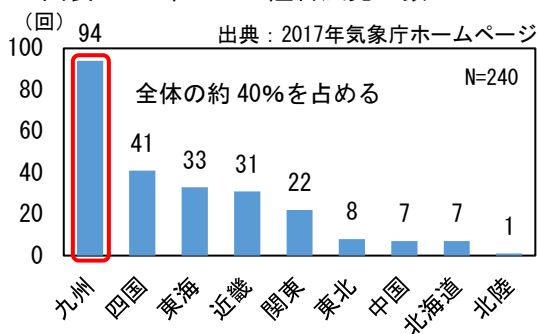
出典：久留米市防災対策課調べ

図表 53 九州北部の活断層

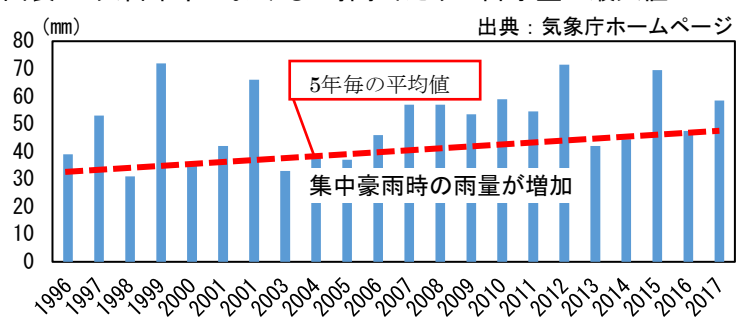


出典：地震調査研究推進本部

図表 54 日本への上陸台風発生数



図表 55 久留米市における1時間当たりの降水量の最大値



◆ 重点テーマの設定

上記のとおり、久留米市では、人口動態統計や救急搬送データ、警察統計、アンケート調査等の各種データを活用して地域診断を行った結果、以下の重点分野・項目を設定して、けがや事故を予防するための取り組みを展開しています。

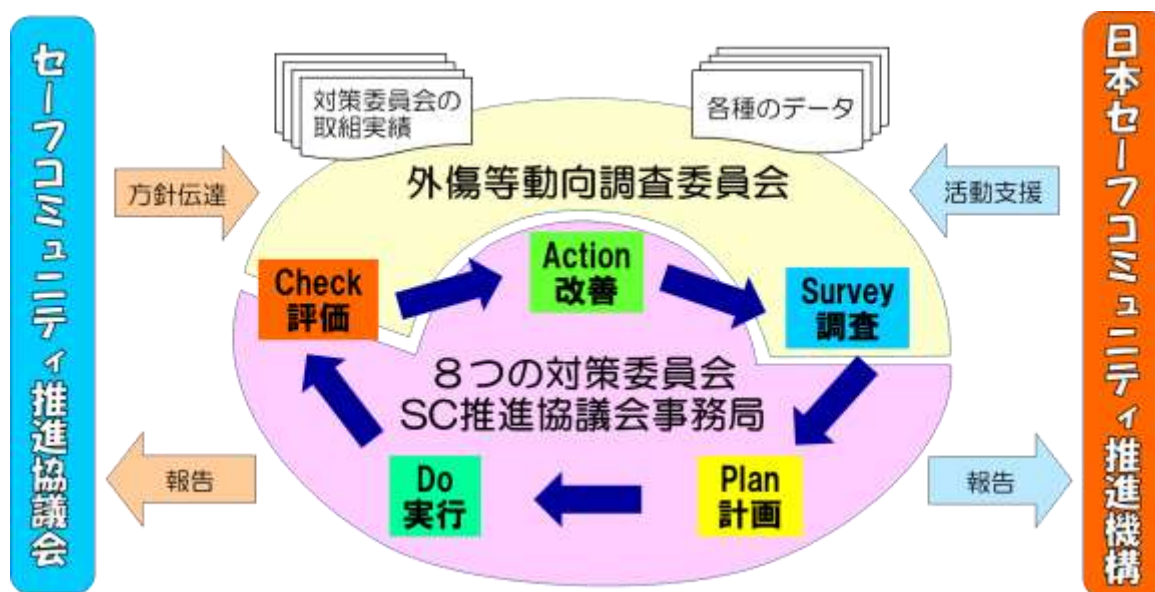
	設定した根拠	図表番号	重点分野	項目
①	「交通事故」は、若い年代で死亡原因の上位に挙げられている。	図表 18	交通安全	○高齢者の交通事故防止 ○自転車事故の防止
②	高齢者関連の事故が増加する中、交通事故による死亡者の半数以上が高齢者である	図表 27 図表 28		
③	市内の自転車事故件数は、県平均を上回っており、また自転車事故は重傷・死亡事故につながりやすい。	図表 29 図表 30		
④	児童虐待に関する相談件数は増加傾向にある。	図表 42	子どもの安全	○児童虐待の防止 ○学校の安全
⑤	児童虐待の被害者は、小学生以下が全体の約 80%を占める。	図表 43		
⑥	救急搬送された 7～17 歳の受傷場所は、約 25%が「学校」である。	図表 23		
⑦	救急搬送された人の半数以上が高齢者であり、高齢者のけがの 50%以上は「転倒」によるものである。	図表 20 図表 34	高齢者の安全	○転倒予防 ○高齢者虐待の防止
⑧	高齢者虐待の相談・認定件数は増加傾向にある。	図表 46		
⑨	近隣住民などからの相談・通報は少なく、潜在化してしまう恐れがある。	図表 47		
⑩	他国に比べ、殺人や凶悪犯罪は少ないものの、「窃盗」などの身のまわりで発生しやすい「街頭犯罪」の割合が高く、市民の犯罪に対する不安は高い。	図表 37 図表 39 図表 41	犯罪・暴力の予防	○犯罪の防止・防犯力の向上 ○DV 防止・早期発見
⑪	DVに関する相談件数は増加傾向にあり、パートナーから暴力を受けた経験がある人が約 20%いる。	図表 48 図表 49		
⑫	幅広い年代で、「自殺」が死亡原因の 1 位に挙がる中で、自殺者数は減少傾向にあるものの、全国や県平均よりも高い。	図表 18 図表 50 図表 51	自殺予防	自殺・うつ病の予防
⑬	近年、各地で自然災害が発生しており、久留米市においても、地震や台風、集中豪雨等による被害が懸念されるなど、災害に対する不安が高まっている。	図表 41 図表 52 図表 54 図表 55	防災	地域防災力の向上

3 セーフティプログラムの進行管理

各種データは、基本的に外傷等動向調査委員会が収集・分析し、特徴的なデータを抽出して、各対策委員会に提供します。

その上で、各対策委員会では、提供されたデータ等を課題の設定や効果の測定に利用するとともに、年間レポートにも活用しています。

図表 135 外傷等動向調査委員会の役割



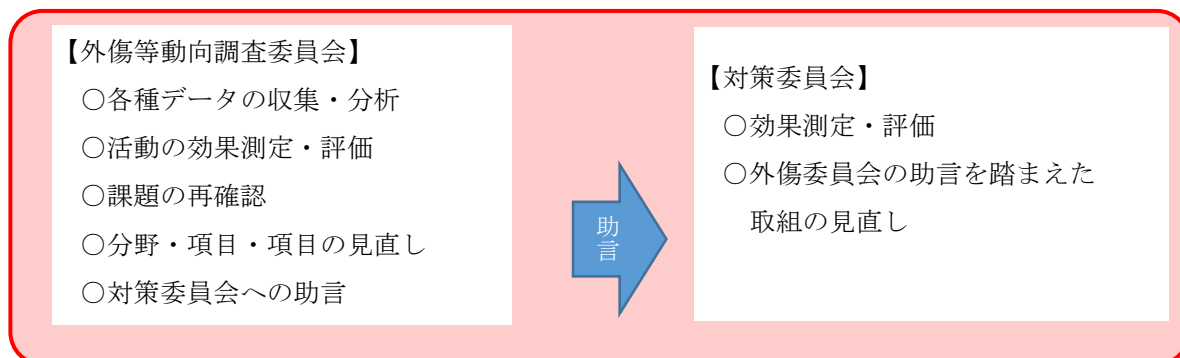
(1) これまでの取り組みに関する効果測定と見直しの実施

地域診断によって、当初重点 6 分野・10 項目・48 施策を設定し、その活動内容の検証・改善については、毎年 PDCA サイクルに沿って実施してきました。

2016 年には、外傷等動向調査委員会において、各種データを基に、これまで続けてきた予防活動の効果測定・評価、課題の再確認を行うとともに、調査結果を対策委員会へ助言・アドバイスするなど、重点分野・項目・施策について見直しを図りました。

その結果、6 分野 10 項目は継続し、新たな課題や取り組みの効率性を踏まえて、施策を 48 から 42 へと統廃合を行いました。

その後も、随時改善を図り、現在は 37 の具体的な取り組みを推進しています。



(5) 防犯対策委員会

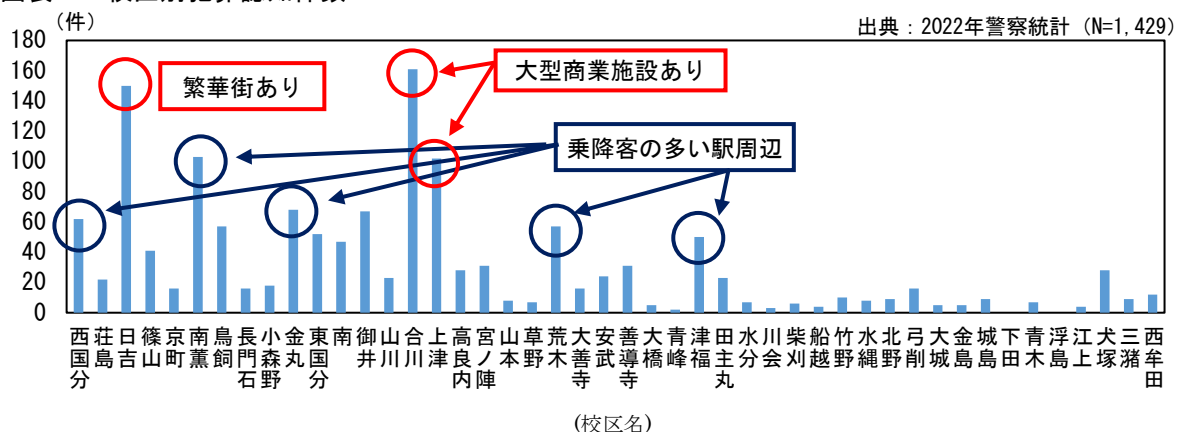
久留米市内で発生する犯罪の認知件数は、セーフコミュニティの取組みを始めた 2011 年の約 1/3 まで減少しており、大幅に改善しています。近年では全国や福岡県の水準も下回っており、市民が協働して取組んでいるセーフコミュニティの成果が出ていると考えています。しかしながら、アンケート調査では市民の約 60%が「ふだんの生活の中で、犯罪に合うかもしれないという不安感を感じている」と回答しています。【図表 36】【図表 41】

また、犯罪の種類について、殺人などの凶悪犯罪は他国と比べて非常に少ない状況にあります。久留米市では、市民がふだんの生活を送る場所での犯罪が多くなっています。

特に窃盗をはじめとする街頭犯罪の割合が高くなっています。また、近年では高齢者を狙ったニセ電話詐欺などの被害も増加傾向にあることから、防犯対策委員会では身近で起こる「犯罪の防止」と市民の「防犯力の向上」を重点項目に設定して取り組みを進めています。【図表 37】【図表 38】【図表 39】

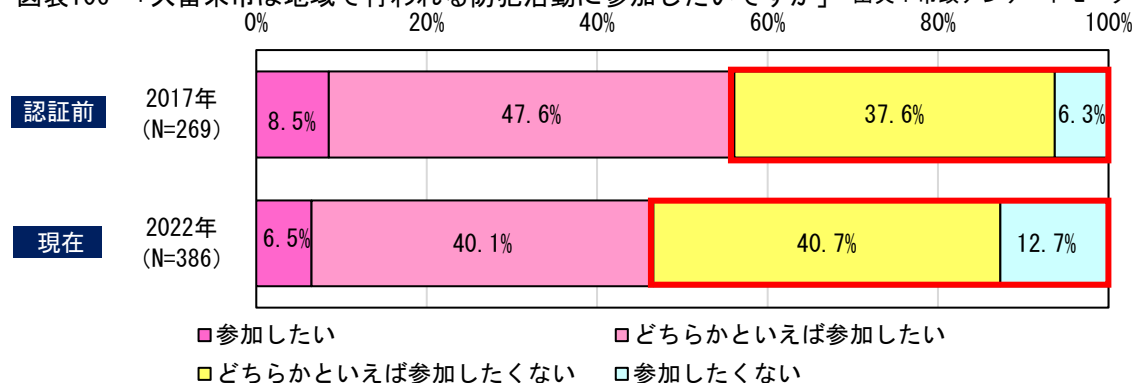
犯罪は、商業施設や繁華街、乗降客の多い駅の近くなど、人の往来が多い場所で多く発生しています。

図表105 校区別犯罪認知件数



地域で行われている自主的な防犯活動に参加したい人が減少しています。犯罪の減少により、地域がより安全になったことで、防犯活動を行う必要性を感じる人が減っている可能性があります。地域の担い手の減少は、地域の自主的な活動の減少に繋がり、犯罪抑止力の低下を招く恐れがあります。

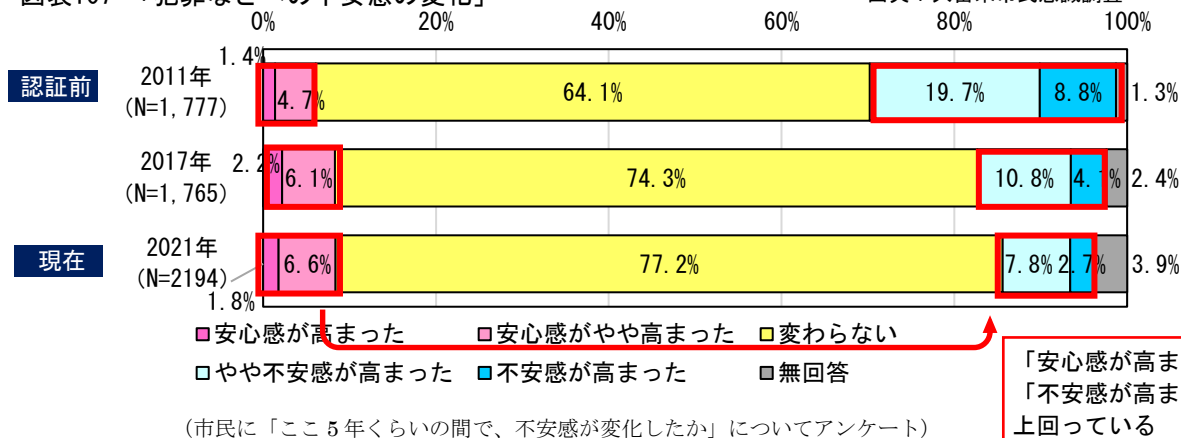
図表106 「久留米市は地域で行われる防犯活動に参加したいですか」 出典：市政アンケートモニター



ここ5年間の犯罪に対する不安感の変化について調査したところ、前回調査に比べ、安心感が上昇し、不安感が低下する結果となっています。しかし、今回の調査においても過去の調査と同様、「安心感が高まった」と回答した人を「不安感が高まった」と回答した人が上回っています。

図表107 「犯罪などへの不安感の変化」

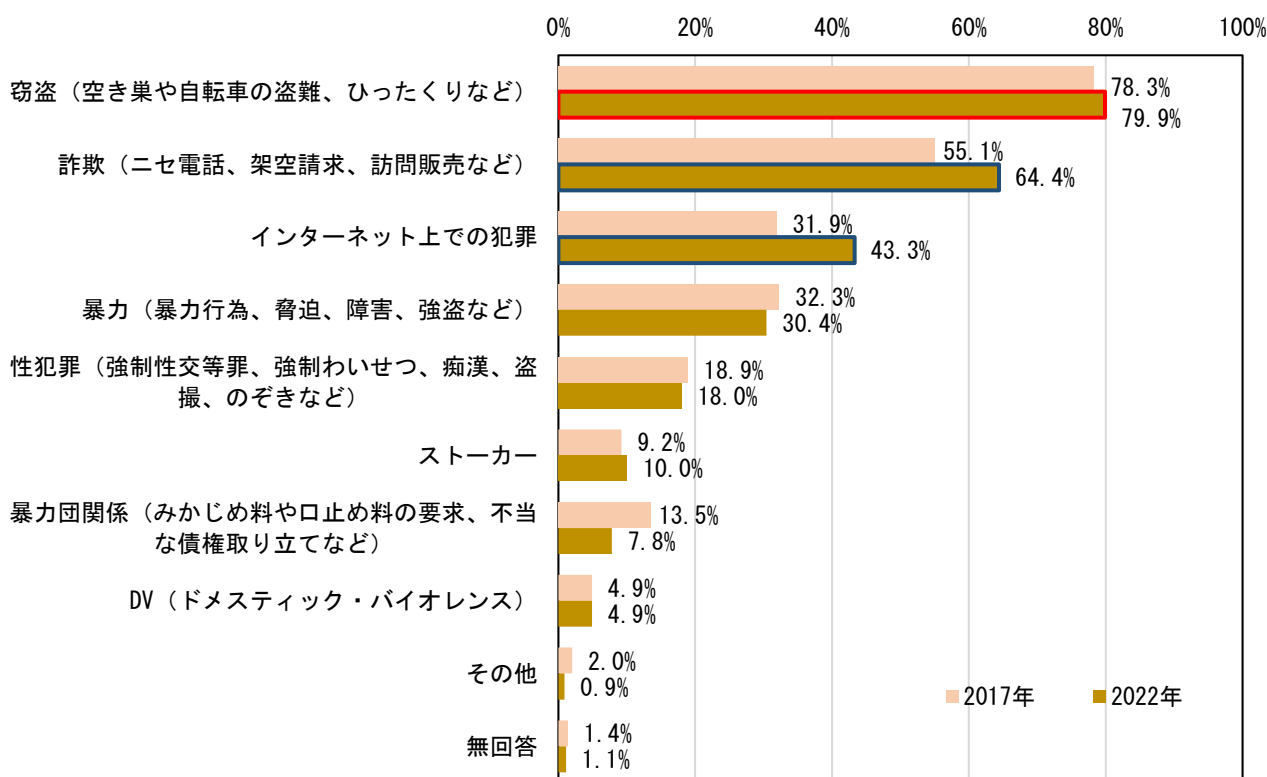
出典：久留米市民意識調査



不安に感じる犯罪として、「窃盗」が約8割となっており、次いで「詐欺」、「インターネット上での犯罪」が多くなっています。

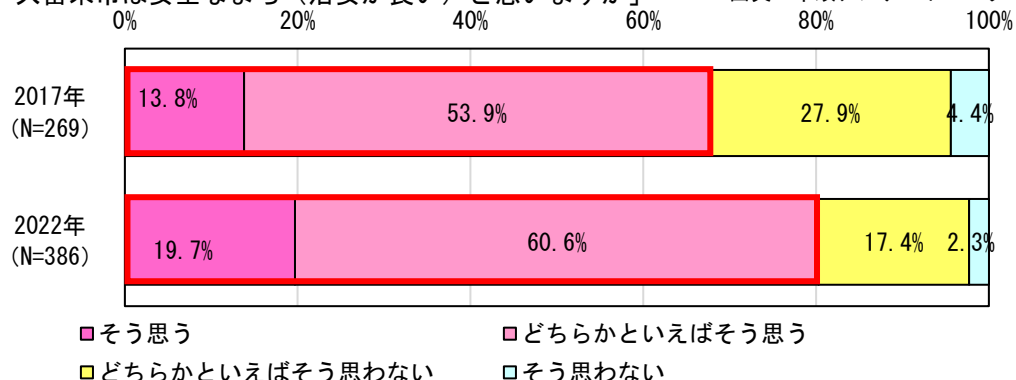
図表108 「あなたが不安に感じる犯罪は何ですか」（複数回答）

出典：セーフコミュニティ実態調査



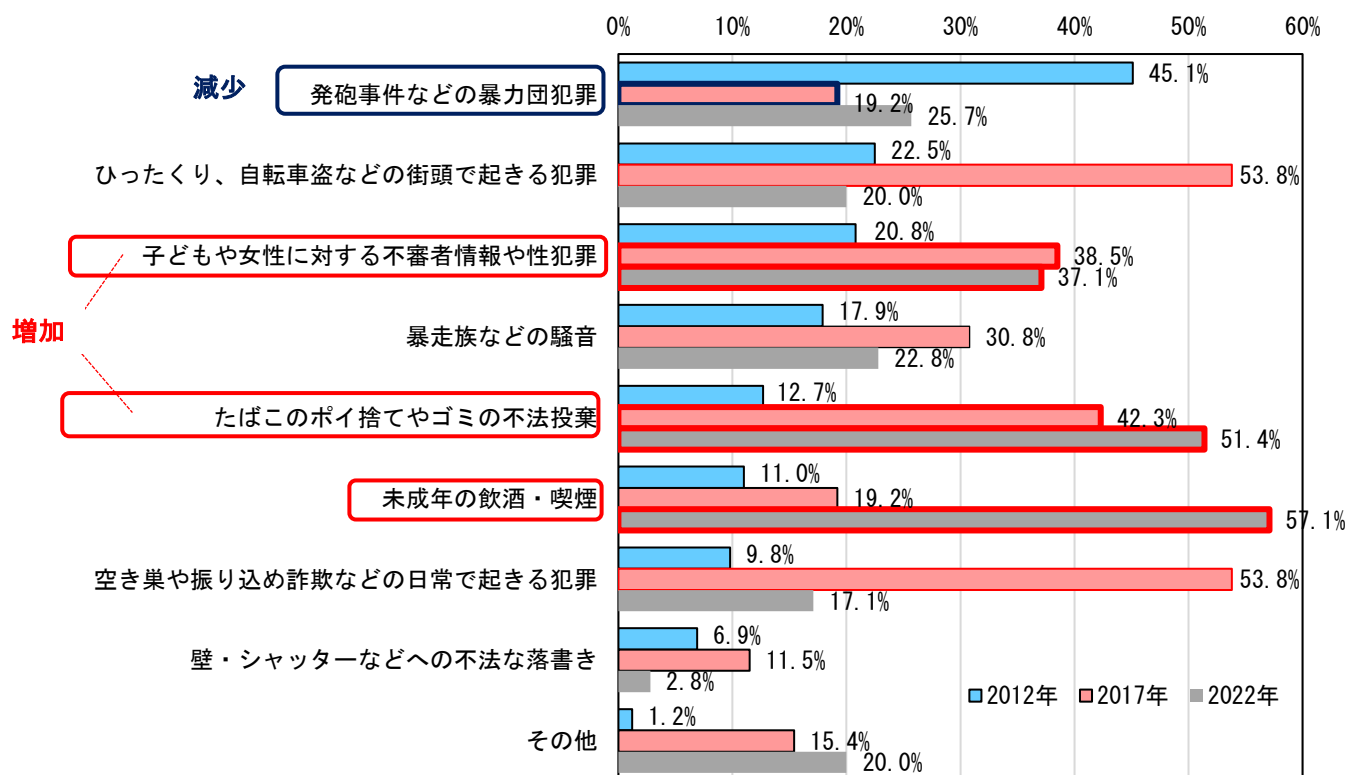
また、久留米市の治安についての調査によると、約8割が「治安が良い」と回答しております。

図表109 「久留米市は安全なまち（治安が良い）と思いますか」 出典：市政アンケートモニター

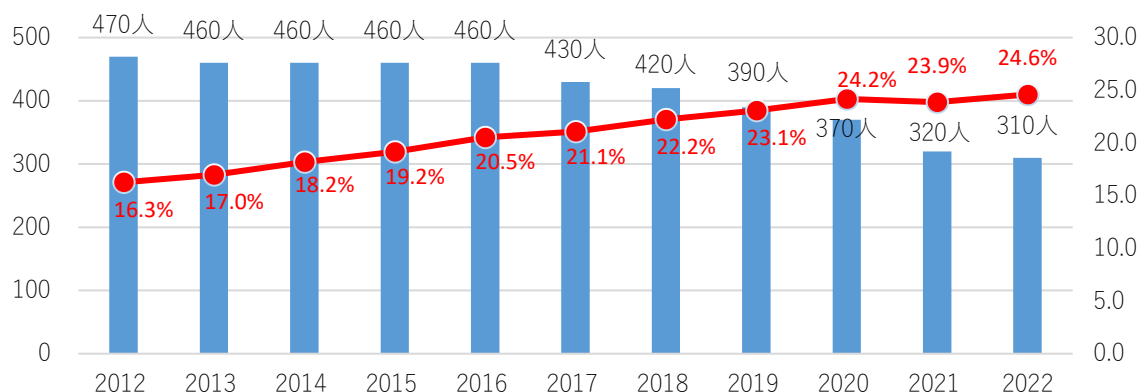


2014年に暴力団の抗争事件が終結し、住民訴訟による暴力団の組事務所撤去などが進んだ結果、「発砲事件などの暴力団犯罪」は減少傾向にあります。暴力団の構成数も減少傾向にあります。県内に占める割合は増加しています。「たばこのポイ捨てやゴミの不法投棄」や「未成年の飲酒・喫煙」が増加しています。「子どもや女性に対する不審者情報や性犯罪」も同水準で推移しています。

図表110 「どのようなことで治安が悪くなったと感じるか」（複数回答） 出典：市政アンケートモニター



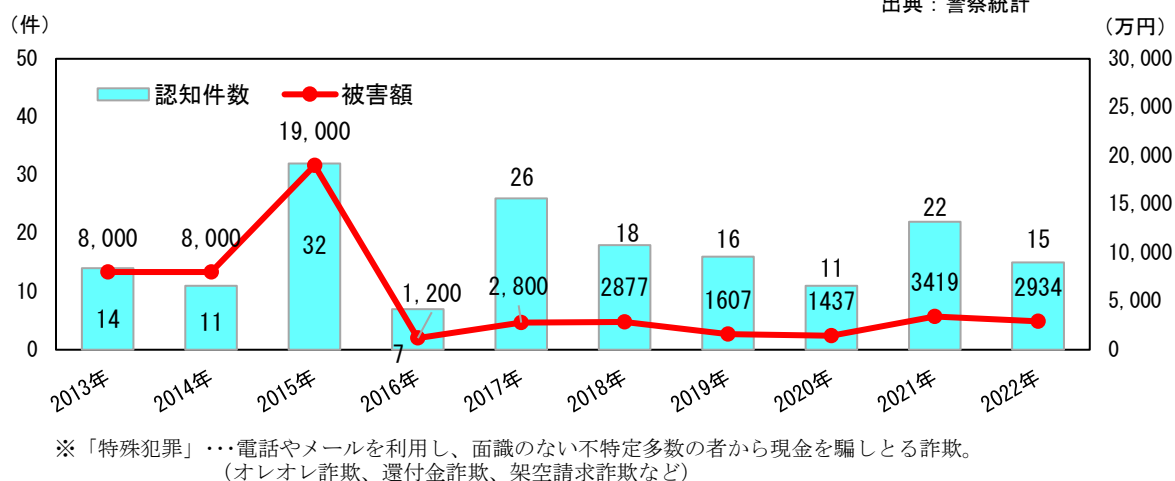
図表 111 県内に占める市内の指定暴力団構成員数の割合



高齢者を狙った特殊詐欺の被害は減少傾向にありましたが、2021年に増加に転じました。2022年は減少に転じましたが、依然高い水準となっております。犯罪に巻き込まれるかもしれない場所でも、「路上」「駐車場・駐輪場」「繁華街」について多くなっています。

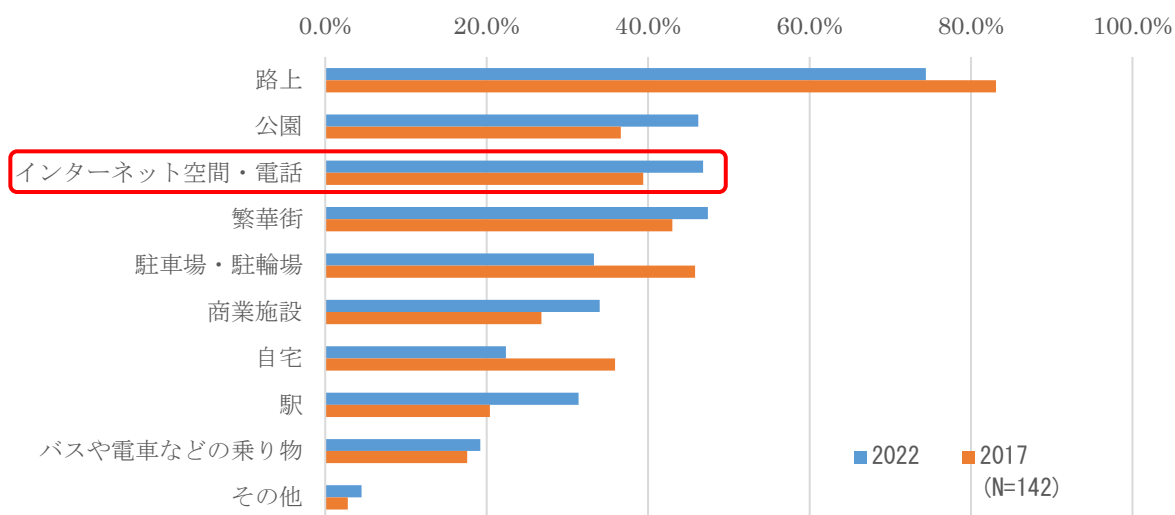
図表112 特殊詐欺の被害状況

出典：警察統計



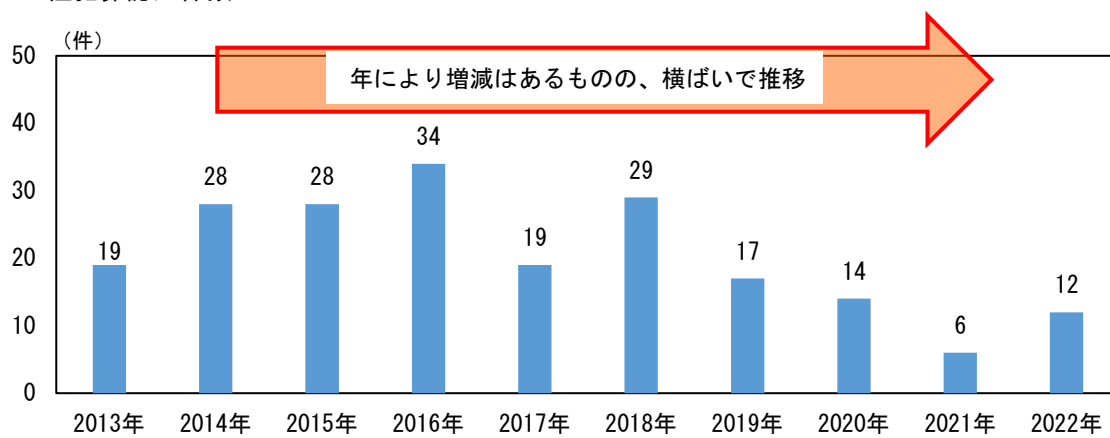
図表113 「犯罪に巻き込まれるかもしれないと思う場所」(複数回答)

出展：市政アンケートモニター



また、全体の犯罪認知件数が減少を続ける中、性犯罪件数は減少傾向とは言い切れず、長いスパンで見ると横ばいで推移しています。

図表114 性犯罪認知件数



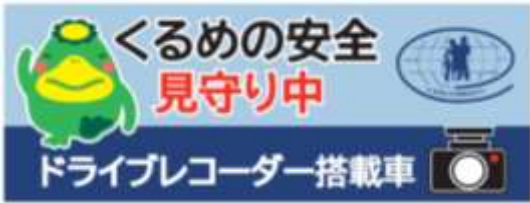
出典：警察統計

課題解決に向けた方向性と取組の整理

重点項目		課題	方向性	No.	取組（当初）	見直し	No.	取組（現在）
犯罪の防止／防犯力の向上	① 客観的	街頭犯罪の中で、「自転車盗」が最も多い【図表 38】	自転車利用者による盗難防止	1	自転車ツーロックの推進	⇒ 継続	1	自転車ツーロックの推進 [対応する課題:①②]
	② 主観的	※割れ窓理論から、自転車盗の放置が凶悪犯罪を誘発する危険性がある						
	③ 客観的	市民の日常の行動範囲内で発生する「街頭犯罪」が多い【図表 37】	地域防犯活動の活性化と環境整備	2	青パト活動団体の拡大・連携強化	⇒ 継続	2	青パト活動団体の拡大・連携強化 [対応する課題:③④⑤]
	④ 客観的	「安心感が高まった人」を上回っている【図表 107】						
	⑤ 主観的	地域の防犯活動にはばらつきがある						
	⑥ 客観的	大型商業施設や駅、繁華街周辺での犯罪が多い【図表 105】		3	安全・安心感を高めるための地域環境の整備	⇒ 継続	3	安全・安心感を高めるための地域環境の整備 [対応する課題:④⑥⑦]
	⑦ 主観的	不特定多数の人が集まる場所で犯罪が多い						
	⑧ 客観的	暴力団の構成員数は減少しているが、県内に占める割合は増加している【図表 111】	市民と連携した暴力追放運動及び暴力団への加入防止	4	暴力団壊滅市民総決起大会等の開催	⇒ 継続	4	暴力団壊滅市民総決起大会等の開催 [対応する課題:④⑧⑨]
	⑨ 主観的	発砲事件などの暴力団犯罪により治安が悪くなったと感じる人が一定数いる		5	児童生徒、青少年への暴力団の実態や構成員になるのを防ぐための研修や啓発の実施	⇒ 継続	5	児童生徒、青少年への暴力団の実態や構成員になるのを防ぐための研修や啓発の実施 [対応する課題:④⑧⑨]
	⑩ 客観的	主に高齢者を狙った特殊詐欺の被害が増加している【図表 112】	犯罪発生状況に応じた情報発信	6	犯罪弱者に対するタイムリーな情報発信・啓発	⇒ 継続	6	犯罪弱者に対するタイムリーな情報発信・啓発 [対応する課題:⑩⑪⑫]
	⑪ 客観的	犯罪認知件数が減少する一方で、主に女性を狙った性犯罪は減少していない【図表 114】						
	⑫ 主観的	高齢者や女性などを狙った犯罪が増加し、手口が多様化している						

【防犯力の向上】5ー① 自転車ツーロックの推進								
課題	客観的課題	街頭犯罪の中では「自転車盗」が最も多い						
	主観的課題	割れ窓理論に照らすと、自転車盗の放置が凶悪犯罪を誘発する危険性がある						
目標		自転車盗の認知件数の減少						
内容		自転車駐車場や商業施設など自転車盗が多く発生する箇所において、無施錠車に対して、ワイヤーロックの安全性等を啓発し、自転車ツーロック推進を呼びかけるなど、自転車利用者に対して、ツーロックの推進を図る。						
対象者		自転車利用者（主に無施錠車）						
実施者		市民・事業者・防犯協会・警察・市 など						
対策委員会の関わり		・街頭啓発キャンペーンの実施 ・委員の所属団体や関係団体における啓発、団体広報誌等への記事掲載 ・チラシ、啓発グッズの作成						
5年間の活動内容		○交通安全分野と連携した自転車ツーロックの啓発 ・自転車安全利用の啓発時に、警察・関係団体・ボランティアと協働でキャンペーン実施 ・小学生を対象とした交通安全教室での自転車ツーロック啓発 ○地域や他団体が行う催しでの啓発 ○市内全中学校の新1年生へ啓発チラシ配布   自転車安全利用教室 交通安全教室						
質的成果		SNS や各団体の広報紙等を活用した防犯情報の提供 ・様々な媒体を活用して、ツーロックの重要性等を周知 他分野との連携 ・交通安全分野と連携						
指標		内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標		自転車駐車場や商業施設などでの啓発活動回数	回	18	5	2	2	2
【短期】認識・知識		自転車ツーロックの実践状況 [自転車利用者アンケート]	%	32.6	28.9	—	—	28.0
【中期】態度・行動		「久留米市は治安が良いと思う人」の割合 [市政アンケートモニター]	%	74.8	75.2	—	75.8	80.3
【長期】状況		街頭犯罪の中で、自転車盗の認知件数 [警察統計]	件	483	544	279	298	355

※「割れ窓理論」・・・1枚の割れたガラスを放置すると、たちまち街全体が荒れ犯罪が増加してしまうという考えのもと、軽微な犯罪も徹底的に取り締まることで、凶悪犯罪を含めた犯罪を抑止するという犯罪理論。

【防犯力の向上】5ー② 青パト活動団体の拡大・連携強化								
課題	客観的課題	・市民の日常の行動範囲内で発生する「街頭犯罪」が多い ・犯罪などへの不安感が高まった人が、安心感が高まった人を上回っている						
	主観的課題	地域防犯活動の内容は校区によりばらつきがある						
目標		街頭犯罪認知件数の減少						
内容		地域、行政、警察、関係団体などが連携し、青パト活動が全小学校区で実施されるよう拡充を図るとともに、各団体参加による合同パトロール等を実施する。						
対象者		一般市民						
実施者		市民・校区・PTA・企業・防犯協会・警察・市 など						
対策委員会の関わり		・各種支援事業の周知 ・合同パトロール、研修会等の開催 ・青パト活動への参加						
5年間の活動内容		○青パト活動実施校区の拡大 2017年：40校区（すべて専用青パトによる活動） →2022年：45校区（すべて専用青パトによる活動） ○合同または一斉防犯パトロールの実施 ○校区青パトによるニセ電話詐欺の注意喚起 ・アポ電の発生校区と連携した、青パトによるニセ電話詐欺のタイムリーな注意喚起を実施 ○警察と連携した年末特別警戒出発式（11月または12月） ○安全見守りステッカーの作成  合同防犯パトロール						
質的成果		・防犯対策に賛同された企業から、青パト及び衝突警報装置の寄附を受けた ・						
指標		内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標		青パト活動を行う校区数 （うち、専用青パト活動校区）	校区	41 (41)	44 (44)	45 (45)	45 (45)	45 (45)
【短期】認識・知識		地域で行われている防犯活動に参加 したいと思う人の割合 [市政アンケートモニター]	%	53.3	49.2	－	45.4	46.7
【中期】態度・行動		合同パトロール実施にあたり連携する 関係機関・団体数	団体	47	51	52	52	52
【長期】状況		街頭犯罪の認知件数[警察統計]	件	838	999	508	567	498

【防犯力の向上】5-③ 安全・安心感を高めるための地域環境の整備							
課題	客観的課題	・大型商業施設や乗降客の多い駅、繁華街周辺で犯罪が多く発生している ・犯罪などへの不安感が高まった人が、安心感が高まった人を上回っている					
	主観的課題	不特定多数の人が集まる場所で犯罪が多い					
目標		街頭犯罪認知件数の減少					
内容		地域、行政、警察、関係団体などが一体となって、犯罪が起りやすいと思われる場所について「地域安全マップ」などを活用しながら、それぞれ危険の原因を取り除く方策（街頭防犯カメラ、防犯灯、注意喚起の看板の設置等）を講じる。					
対象者		一般市民（犯罪が起りやすいと想定される地域、場所）					
実施者		市民・校区・PTA・防犯協会・警察・市 など					
対策委員会の関わり		・補助制度等の周知 ・委員の所属団体等における啓発					
5年間の活動内容		○街頭防犯カメラの設置 ・市設置：37 台設置 ※大型商業施設や乗降客の多い駅周辺、繁華街など ・市補助による地域への設置：72 台設置（延べ 35 校区/15 団体） ※地域住民が不安と感じる場所を選定 ○地域が管理する防犯灯、約 6,000 基の設置・更新に対する補助を実施 ○道路付属照明灯設置事業 ・約 7,000 基の道路付属照明灯を設置   街頭防犯カメラ 防犯灯					
質的成果		市の防犯施策の充実 ・街頭防犯カメラ設置補助（2016～） ・道路付属照明灯設置事業（2017～2019）					
指標	内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標	①防犯灯設置費補助件数	件	1,558	1,402	1,035	798	集計中
	②街頭防犯カメラ設置補助台数	台	17	17	14	10	14
【短期】認識・知識	「この 2～3 年で治安が良くなった」と思う人の割合 [市政アンケートモニター]	%	40.8	45.1	—	42.8	41.2
【中期】態度・行動	久留米市は治安が良いと思う人の割合 [市政アンケートモニター]	%	74.8	75.2	—	75.8	80.3
【長期】状況	街頭犯罪の認知件数[警察統計]	件	838	999	508	565	498

【防犯力の向上】5－④ 暴力団壊滅市民総決起大会等の開催								
課題	客観的課題	・市内に本拠を置く指定暴力団の構成員数は減少傾向にあるが、県内に占める割合は増加している。 ・犯罪などへの不安感が高まった人が、安心感が高まった人を上回っている						
	主観的課題	発砲事件などの暴力団犯罪により治安が悪くなったと感じる人が一定数いる。						
目標		暴力団の構成員の減少、暴力団の壊滅						
内容		地域社会全体で暴力団壊滅追放に取り組むため、警察、行政、市民、事業者が連携し、市民総決起大会を開催する。また、一部小学校区で実施されている暴追大会などを全小学校区で実施されるよう拡充を図る。						
対象者		一般市民						
実施者		市民・校区・PTA・防犯協会・暴力追放推進協議会・警察・市 など						
対策委員会の関わり		暴力団壊滅市民総決起大会への参加 委員の所属団体等における暴力団排除の取り組み						
5年間の活動内容		○暴力団壊滅市民総決起大会を毎年2回（6月、12月）開催。 ※2020年及び2021は、新型コロナウイルスの影響で12月開催のみとなったが、毎年継続して大会を実施 ○メディアを活用した広報啓発 ・暴力団壊滅リレーメッセージを市内各地で放映 ・暴力団追放啓発動画を制作し、Youtubeや市庁舎で放映 ○校区と連携した暴追活動 ・校区の暴追大会や啓発の際に、啓発物提供等の支援。補助金交付   暴力団壊滅市民総決起大会 リレーメッセージの放映						
質的成果		全小学校区での暴追組織設立						
指標		内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標		暴力団壊滅市民総決起大会の開催数	回	2	2	1	1	2
【短期】認識・知識		暴力団壊滅市民総決起大会の参加者数	人	1,500 2,000	1,500 2,000	31	160	1,500 2,000
【中期】態度・行動		独自の暴追取り組みを行っている校区数	校区	42	42	41	41	43
【長期】状況		市内に事務所を置く暴力団の構成員数 [警察統計]	人	420	390	370	320	310

【防犯力の向上】5ー⑤ 児童生徒、青少年への暴力団の実態や構成員になるのを防ぐための 研修や啓発の実施								
課題	客観的課題	・市内に本拠を置く指定暴力団の構成員数は減少傾向にあるが、県内に占める割合は増加している。 ・犯罪などへの不安感が高まった人が、安心感が高まった人を上回っている						
	主観的課題	発砲事件などの暴力団犯罪により治安が悪くなったと感じる人が一定数いる。						
目標		暴力団の構成員の減少、暴力団の壊滅						
内容		中学生・高校生が対象であった暴力団関連の講話や啓発を小学生高学年に拡大し、暴力団の構成員になるのを防ぐことで、暴力団の弱体化を図る						
対象者		小学校高学年・中学生・高校生						
実施者		市民・学校・PTA・青少年育成団体・暴力追放推進協議会・警察・市など						
対策委員会の関わり		啓発内容に関する関係機関等との調整						
5年間の活動内容		○警察が実施する暴排講話 ○小学校高学年に対しては一般的な防犯教室や非行防止教室の際に暴力団について触れることで、暴力団への加入防止を図っている。 ○小学生向け啓発メモ帳（「暴力・非行のないまちに」）の作成（2019年度から活用） 						
質的成果								
指標	内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022	
活動指標	暴力団排除などの防犯教育活動を行った学校数	校	150	109	87	110	125	
【短期】認識・知識	不良行為少年補導数[警察統計]	人	1,237	1,234	1,066	947	1,274	
【中期】態度・行動	市内の刑法犯少年・検挙補導数[警察統計]	人	100	67	56	53	69	
【長期】状況	市内に事務所を置く暴力団の構成員数[警察統計]	人	420	390	370	320	310	

【防犯力の向上】5ー⑥ 犯罪弱者に対するタイムリーな情報発信・啓発					＜新規＞			
課題	客観的課題	・主に高齢者を狙った特殊詐欺の被害が急激に増加している ・犯罪認知件数の全体件数が減少を続ける一方で、主に女性を狙った性犯罪は減少していない						
	主観的課題	高齢者や女性などが犯罪被害に遭いやすい傾向があり、これらを狙った新たな犯罪が常に生まれ続けている						
目標		特殊詐欺、性犯罪被害等を減少させるため、多くの方へ情報発信する						
内容		特殊詐欺やサイバー犯罪、性犯罪など、高齢者や女性など被害に遭いやすい傾向にある者を狙った犯罪について、発生状況等に応じ、タイムリーな情報発信による注意喚起意を行う。						
対象者		一般市民（高齢者、女性など）						
実施者		市民・事業者・防犯協会・警察・市 など						
対策委員会の関わり		・街頭啓発キャンペーンの実施 ・委員の所属団体や関係団体における啓発、団体広報誌等への記事掲載 ・チラシ、啓発グッズの作成						
5年間の活動内容		○急増するニセ電話詐欺など特殊詐欺に対する情報発信・啓発 ・ニセ電話詐欺や悪質商法に関する出前講座 ・校区青パトによるニセ電話詐欺や給付金詐欺の注意喚起 ・広報誌や市公式 Youtube 等によるニセ電話詐欺の注意喚起 ・ニセ電話詐欺をテーマにしたセーフコミュニティ通信発行 ・防犯協会によるニセ電話詐欺対策事業の啓発 ○悪質商法撲滅パネル展の実施 ○性犯罪防止街頭キャンペーンの実施  出前講座での注意喚起 動画による注意喚起						
質的成果		・高齢者安全対策委員会や消費生活センター等との連携						
指標	内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022	
活動指標	犯罪の動向に応じた啓発活動・出前講座回数	回	87	67	9	24	26	
【短期】認識・知識	「この2～3年で治安が良くなったと思う人」の割合[市政アンケートモニター]	%	40.8	45.1	－	42.8	41.2	
【中期】態度・行動	「久留米市は治安が良いと思う人」の割合[市政アンケートモニター]	%	74.8	75.2	－	75.8	80.3	
【長期】状況	①特殊詐欺被害件数・阻止件数	被害(件) 阻止(件)	18 (34)	16 (20)	11 (24)	22 (62)	15 (43)	
	②性犯罪認知件数[警察統計]	件	29	17	14	6	12	

